



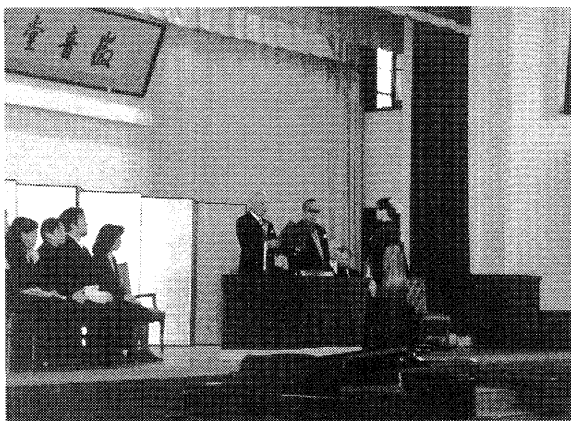
お茶の水女子大学学报

平成 11 年 5 月 1 日
お茶の水女子大学庶務課

目 次

◇ 平成10年度卒業式・学位記授与式 学長告辞	2	◇ 学 事	61
◇ 平成11年度入学式学長告辞	7	◎平成12年度お茶の水女子大学理学部第3年 次編入学（社会人特別選抜を含む）学生募 集要項	61
◇ 学 内 規 則	11	◎学位授与	67
◎お茶の水女子大学大学院学則の一部を改正 する学則	11	◎卒業式及び学位記授与式	71
◎お茶の水女子大学毒物及び劇物管理規則	15	◎入 学 式	71
◎お茶の水女子大学附属図書館運営委員会規 程の一部を改正する規程	24	◇ 諸 報	72
◎お茶の水女子大学事務組織の変更に伴う関 係規程等の一部を改正する規程	25	◎平成11年春の叙勲	72
◎お茶の水女子大学公印規程の一部を改正す る規程	28	◎永年勤続者表彰式	72
◎お茶の水女子大学文書管理規程の一部を改 正する規程	30	◎海外渡航	73
◇ 各種委員会委員	32	◎平成10年度女性の教育問題担当官セミナー に係る研修員の訪問	75
◇ 学 科 主 任	45	◎CHATHAM COLLEGE 学長の表敬訪問	75
◇ 新任部局長紹介	46	◎国際学生宿舍の改修整備工事竣工	76
◇ 人 事	48	◎健康診断	77
		◎レクリエーション行事	78
		◎訃 報	79
		◇ 日 誌	80

平成10年度卒業式 学長告辞



卒業生の皆さん、今日この徽音堂に、ご来賓並びに保護者の方々を多数お迎えして、皆さんとともに卒業式を挙げていきますことを、たいへんうれしく思います。先程卒業証書を授与された平成10年度の卒業生は、総数597名、その中には外国人留学生が7名含まれています。私は本学の教職員のすべてを代表して、卒業生の皆さんに心からお祝いの言葉を申し上げます。卒業おめでとう。

顧みますと、皆さんの大部分が本学に入学した4年前の平成7年（1995年）という年は、1月に阪神・淡路大震災が発生し、それに続いて3月には東京で地下鉄サリン事件が起こった年でした。我が国の東と西で、かたや自然の、こなたは人為的大災害が、短い間に相継いで起こり、我が国のと言うよりは、人類の歴史が続く限り決して忘れられることのない恐怖の年でした。そして、それらの恐怖がまだ生々しく続いている最中の4月10日に同じこの徽音堂で入学式が執り行われました。その後の皆さんの在学中にも汚職、贈賄事件や毒殺事件等の数々のおぞましい事件が次から次へと世間の耳目を引き、バブル崩壊後の金融システムの破綻、それに伴う深刻な経済不況は今日なお重大な問題となっています。卒業後、企業等に就職を希望していた人たちの就職難はついに改善されること

なく、年を追うごとに悪化の一途をたどっている状態です。就職は殊に女子学生に厳しく、言うなれば、皆さんの大学生活はまことに厳しい状況下で終始したと言って過言ではありません。

ところが一方では、目前に迫った21世紀の男女共同参画社会の実現に向けて今や各界あげての真剣な取り組みがなされています。すべての人が言うように、少子化と高齢化がますます進むであろう21世紀の社会は、男女が等しく力を合わせて行かなければ到底成り立たないと、私も思います。真剣な取り組みと言え、私もそのメンバーの一人である男女共同参画推進連携会議（えがりて *égalité*）〔フランス語の平等〕等では、毎回熱心な報告と討論が重ねられています。しかしながら、男女の雇用機会の均等、性差別の撤廃、女性の人権の尊重が叫ばれてすでに長い時間を経過していますが、いまだにその完全実施には程遠い状況にあります。たとえば、少し古くなりましたが、手元の最も新しい資料を見てみますと、平成7年の総理府の「男女共同参画に関する世論調査」によれば、男女ともに70%を越える人たちが日本の社会はいまだに男女不平等であるとの認識をもっていますし、労働省の平成7年の「賃金構造基本統計調査」では男女の賃金格差が30代を過ぎると加速的に広がり、40代以後は男性賃金の約60%の割合から、定年60歳になると約55%にまで落ち込むことを示しています。以前に比較すれば女性の社会進出は確実に増加して来ているとは言え、欧米先進国に比べればまだその割合は決して高くありません。総務庁の「国勢調査」によると、会社役員で14.4%、管理的公務員は3.6%、国会議員数では6.8%ときわめて低い割合に止まっています。このことで私は思い出すことがあります。それは、一昨年平成9年の11月、国立婦人教育会館の創立20周年記念の式典に参加したときの思い出です。式典の冒頭、当時の内閣総理大臣橋本首相が最初に来賓挨拶して、所要のためと断って早々と退席した後、やはり

来賓の一人であった元文部大臣の森山真弓衆議院議員が続いて演壇に登り、開口一番、直前に行われた内閣の改造人事にふれて、「このたびの内閣改造で閣僚に一人の女性も入っていないのを首相に抗議しようと思ったら、首相は退席されてしまった」と言ったとき、会場がわれんばかりの大きな拍手がまき起こったのにびっくりした記憶があります。多くの人たちが男女共同参画社会の実現に熱い思いを抱いていることが、この一つのことから理解できます。皆さんはこれからの新しい社会を作って行く、貴重な人材にほかなりません。

皆さんは今日で大学の学部の生活を終え、これから実社会に出て働く人、大学院等に進学してさらに研究生生活を継続する人など、人により進路はさまざまでしょうが、いずれの場合でも21世紀は完全に皆さんの時代です。女性の活躍が期待され、女性の責任が問われる時代の指導的な役割を担うのは皆さんです。指導的な役割とは、別に皆さんのすべてに管理職になれとか、国家議員になれと言っているわけではありません。そのような社会的に目立つ地位に就くのは、男女を問わずきわめて少数の人たちに限られています。私の言いたいことは、たとえ会社の一社員であろうと、一教員、一研究者であろうと、はたまた将来家庭に入って主婦専業になったとしても、願わくは男性とともに、それぞれの分野で自己の責任をはたし、一人一人のまじめで正直な生き方が他の人々の共感と尊敬を集めるような人になって欲しいと希望するのです。今年で創立125年を迎える本学の長い歴史を支えてきたのは、いま私が述べたような卒業生でした。

昨年の5月、私は本学同窓会の桜蔭会の東京支部の会合に招かれて話をする機会を与えられました。演題は「女子師範学校初代摂理 中村正直先生について」で、摂理(校長代理)とは言え、本学の前身である東京女子師範学校の実質的な初代の校長であった中村正直と当時国交

開始後初めて来日した清国公使館の人たちとの親密な交流を中心にお話しました。中村正直は皆さんがよく知っているように、『西国立志篇』などで知られる明治の偉大な啓蒙家の一人です。本学図書館の1階には彼の肖像画がかかっていますので、見たことのある人も少なくないでしょう。ところで、その時に話した内容は別にして、私は講演の準備の過程であらためて本学の歴史を読み返してみました。また、講演に際して同窓会の会員から資料の提供もうけました。例えば、その資料の中に『松本萬年の女弟子たち』(長島二三子著)と題する小冊子があり、3人の女性の伝記がまとめられていました。東京女子師範学校の第1回受験生でありながら学生の身分を飛び越えて直ちに教員に採用された松本荻江、やはり同じ第1回の受験生で後に日本の女医の第1号になった荻野吟子、女子師範学校とは直接の関係はありませんが、師範学校に進学するための予科的な学校で松本荻江の教えを受け、女医を目指して荻野吟子の影響を受けて女医の第2号になった生沢クノの3人です。それぞれ見事な生涯を送った人たちですが、とりわけ荻野吟子と生沢クノの医師にかける執念は、それまで女性に閉ざされていた医師の国家試験の堅い扉をとうとう開けさせる程強烈なものがありました。もちろん松本荻江や荻野吟子だけではありません。他にも日本の女性博士号の第1号になった人など、女性のパイオニア役をつとめた卒業生たちが多数います。彼女たちの生涯は、まさに社会進出を目指した女性の苦闘の歴史そのものと言って過言ではありません。彼女たちは決して社会的な名声や地位を目的にしたわけではありません。真摯な努力の積み重ねの結果として、歴史に残る輝かしい業績をあげ得たのです。

しかしながら、今回の本学の歴史を回顧する中で私がことさらに感動したのは、荻野吟子が東京で成功していた荻野医院と婦人運動家としての名声を捨て、晩年は北海道に渡って地方医

療に専念したことです。生沢クノは医師の免許をとると即日郷里である現在の埼玉県深谷市に帰り、医師の父を助けて活躍しました。二人とも、言わば世間的にはあまり日の当たらない場所をみずからの働く場として選択したのです。私が皆さんに希望するのは、このような一見地味でありながら、しかし人々に信頼される女性の生き方を学んで欲しいということです。現在我々に求められているのは、個性の確固たる自立と、それに基づく明確な自己の主張、そして自己責任です。それは社会的な出世や自己の顕在化とは必ずしも結びつきません。むしろ平凡な生活の中でこそそれが価値をもち、社会の構成員である我々一人一人にこの心構えが切実に求められているものです。『お茶の水女子大学百年史』の第3章「東京女子高等師範学校」の章に、「《美奈子》の生き方」と題する短い1節があります。そこには、いま私の述べた考えを具体的に表す文章が掲載されていて、「生活史のうえでその目立たぬ、しかし社会の平均的女性とは異なった“個性”を探る「ひとつの手掛かりとして」、本学卒業生の栗山美恵（昭和14年家事科卒）が著した半自伝的小説『果てしなく蝶は行きぬ』（昭和51年刊）を紹介する文章です。『百年史』とともにこの栗山の作品を、機会があったらぜひ読んでみてください。

最初に申しましたように、皆さんが厳しい社会状況の下で大学生活を送ってきたことは紛れもない事実であります。卒業後もこの厳しさは決して解消されることはなく、むしろますます困難な苛酷な状況に直面する機会が多くなることを覚悟しておく必要があります。多くの先輩たちが苦闘した昔とはまた違った、より深刻な不条理や苦労が皆さんを待ち受けているに違いありません。それらを乗り越えて行く力を皆さんが在学中にしっかり身につけたかどうか、途中で挫折しはしないか、大きな不安と限りない期待をこめて、今日皆さんを送り出します。

最後に、今日の卒業に至るまで、多くの人た

ちがさまざまな苦労を重ねつつ学業を続けてきたと思いますが、皆さん一人一人の苦労もさることながら、この間皆さんの大学生生活を支えて来られた保護者の方々のご苦心、ご努力に心から敬意を表します。皆さんはそれを決して忘れてはなりません。保護者の方々、あるいは皆さん以上に皆さんの卒業を喜んでおられるのではないのでしょうか。さらに付け加えれば、皆さんが本学に入学して以来、皆さんの学業と生活面での指導や支援に当たってきたお茶の水女子大学の教職員にも、この際学長としてねぎらいの言葉を述べたいと思います。

皆さんと本学の縁は、今日限りで終わりとすることは断じてありません。もし困難に直面したらいつでも相談に戻ってきてください。これまでもそうであったように、大学は皆さんの生涯にわたる母船の役割を果たしたいと考えていますから。

皆さんの健全で充実した将来を衷心より祈念して、私の告辞を終わります。

平成11年3月23日

お茶の水女子大学長 佐藤 保

平成10年度学位記授与式 学長告辞

今年度から、この徽音堂の収容人数の関係で、学部の卒業式と大学院の学位記授与式を分離して行うことになりました。あなたがたはたまたま、その分けて行われる学位記授与式の最初の修了生ということになります。

さて、今回修士と博士の学位を授与された大学院の修了生諸君は、修士課程204名、博士課程24名で、合計228名にのぼります。そして、修士課程修了者は、人文科学研究科・理学研究科・家政学研究科の3研究科28名と、人間文化研究科前期課程の176名がその内訳です。学部の上に置かれた研究科のうち、理学研究科と家政学研究科は今回で全学生が修了しましたので、今年度をもって両研究科は廃止されることになります。

また、この修了者の数字には、修士課程で17名、博士課程で7名、計24名の外国人留学生の人たちが含まれています。先程述べましたように、今日の午前中に同じここ徽音堂で挙行された学部の卒業式では、全体で597名の卒業生の中の外国人留学生の数はわずか7名(1.2%)でしたが、それに比較して大学院留学生の割合(10.5%)が高いのは、本学に限らず日本のどの大学にも見られる近年の特徴的な傾向です。大学院に進学して高度の専門的な研究に従事する留学生の増加はまことに歓迎すべきことではありますが、それにしても、日本の昨今の物価高は日本人学生でさえ学業を続ける上で重い経済的な困難を感じているのに、少数(7名)の国費留学生以外の多くの私費留学生諸君のこれまでの苦労は並大抵でなかったろうと推察します。幾多の困難を乗り越えて、今日みごと学位を取得された留学生諸君に心からお祝いの言葉を贈りたいと思います。

祝福の言葉はもちろん日本人学生の諸君にも平等に述べられなければなりません。程度の差

こそあれ、日本人学生の大学院生活も決して皆が皆楽ではなかったはずです。学部生と違って、大学院の学生諸君の多くが経済的に独立し、家からの支援無しに自立した生活を送っていることを、私は知っているからです。経済のみならず種々の苦労の末に、今日一つの目標を達成したあなたがた全員に、「学位取得おめでとう」と申し上げます。

ところで、あなたがたはこれから、どのような道に進まれるのでしょうか。おそらく修士課程を終えた人たちの多くは後期の博士課程に進学するものと思われませんが、修士課程だけで大学を離れて実社会に出て行く人も少なくないでしょう。あるいは研究の意欲をもちながらも、やむを得ない事情で家庭に入る人も中にはいると思います。言うまでもなく、大学院生のすべてが研究者になる必要はありませんし、またなれるものでもありません。研究者以外にも、多種多様な有意義な生き方が存在するはずで、それぞれの生き方は、大学院生ともなればまったく個々人の自主性と責任に委ねられています。あなたがたが今後大学のキャンパスを離れて一般企業に就職しようと、はたまた家庭に入ろうと、たとえどのような進路を選んでも、あなたがたはすべて大学院の専門分野でそれぞれの専門研究に従事した人たちですから、今後も何らかの意味で研究から離れることはできないと思います。また、ぜひともそうであって欲しいと希望します。なぜならば、学問に対する意欲と関心をもち続けるならば、しかるべき条件さえ整えばいずれまた研究生活に復帰する可能性のある人が少なくないと考えるからです。私はこれまでも卒業後、あるいは修士修了後に再び大学院に戻って研究を再開し、立派な研究者になったあなたがたの先輩の数多くの例を見て来ました。

4月から引き続き後期課程に進学する人、そしてまた後期課程の博士の学位を取得した人は、言わば研究者の道を歩み始めた人たちです。そ

うは言っても、もとよりすべての人が研究職について幸福な環境で研究の継続ができるのは、現下ではまだ僥倖に属することと行って過言ではありません。男性中心の社会における女性の社会進出がきわめて難しい状況にあることは、あなたがた自身がよく知っていることでしょう。まだまだ日本の大学・研究機関等で女性研究者の占める割合は極めて低いと言わざるを得ません。総務庁の「国勢調査」によれば、女性科学研究者の研究者全体に占める割合は、14.0%に過ぎません。仮に幸運に恵まれて教育・研究職に就けたとしても、これまでに学んだ専門と異なったことをやらなければならない場合も少なくないでしょう。このように状況は必ずしも明るくはありませんが、先程も述べたように、本学で学んだことはあなたがたの今後の生活の中で必ずやどこかで生かされ、何らかの形で継続されるものと私は固く信じています。なぜならば、そうでなければ、あなたがたがわざわざ大学院に入って学んだ意味がないからです。どうか研究の意欲と忍耐をいつまでももち続けて欲しいものと、心から希望します。

それにつけても、昨年10月に本学のジェンダー研究センターと理学部の共催で、ラジウム発見で名高いキュリー夫人のお孫さんを迎えて開かれた「マリー・キュリーとこれからの女性自然科学者」という講演会のことを思い出します。講演会に参加した人も少なくないことと思います。マダム・キュリーの生き方は、新制中学校の生徒の頃その伝記映画を見た我々すべての夢であり、彼女の生涯に深い感銘をうけたものでした。また、講演会の際に理学部の一室では、本学卒業生の3名の女性科学者の遺品を展示する展覧会も開かれました。すなわち保井コノ、黒田チカ、湯浅年子の3博士の遺品です。我が国の女性自然科学者のパイオニアであった3博士の日常生活と研究の歩みを伝える遺品の数々が展示されていました。この展覧会もまた、極めて感動的なものでした。マダム・キュリー

のそれと同じく、保井博士等の生涯は、自然科学の範疇を越え、そして男女の性別に関係なく、広く我々のすべてに貴重な教訓を与えてくれます。

もちろん3博士以外にも、社会の人々の信頼と尊敬を勝ち得た卒業生、現に信頼されつつ活躍中の先輩たちが多数います。私は最近、学外のさまざまな会合に出る機会が少なくなく、そのような会合で、各種の分野で指導的な役割を果たしている女性の方々にお会いすることが多いのですが、時々思いもかけない方から「私は女高師の卒業生です」とか「お茶大を出ました」と自己紹介を受け、うれしい驚きとともに本学の伝統の底力を痛感しています。本学の卒業生は、概して地味な「草の根」的な活動をしている方が少なくないようです。優れた先駆者たちは言うまでもなく大きな価値ある存在ですが、多数の地道な活動をしている方こそ、我々の社会を支える貴重な実質的な力と言えます。そのような活動を続けている本学の卒業生諸君に会うたびに、私は教育界に身を置く我が身の幸せを感じています。今日で本学を去る人は、どこかで会う機会があったら、ぜひ声をかけてください。

最後に、あなたがたのすべての人が、たとえ進む道は違っていても、それぞれの分野で各自の特性と能力を十分に発揮してその責任をはたし、人々に信頼される人になって欲しいという希望を述べて、私の告辞を終えたいと思います。21世紀は、あなたがたの活躍とともに、もうすぐ幕を開けます。

平成11年3月23日

お茶の水女子大学長 佐藤 保

平成11年度入学式 学長告辞



学 部

新入生の皆さん、そしてご列席の保護者の方々、暖かい春の陽光がいっぱいに溢れるこの好き日に、平成11年度の入学式を挙げてご来賓の皆様、私は大変うれしく思います。今日ここにお茶の水女子大学は、3学部568名の新しい仲間を迎えました。568名の新入生の中には、4名の外国人留学生と41名の3年次編入の人が含まれていますが、いずれも皆本学の入学試験の難関を突破して入学された人たちです。私はお茶の水女子大学の教職員・在校生全員を代表して皆さんを歓迎し、心から「入学おめでとう」とお祝いの言葉を申し上げます。

皆さんは今日から本学の学生として、これから4年間ないしは2年間の大学生活を始めることとなります。大学生活の中心は、教室で先生の講義を聞き、研究室でゼミに参加し、実験室で実験するなどの、教育カリキュラムに即した学習と研究にあることは言うまでもありません。皆さんはそれぞれの将来の夢や目標をもって、本学に入学してきた人たちです。大学の授業を通して高度の教養を身につけ、専門知識を学び取り、それを基礎にして将来の夢を実現しようと考えているはずで、従って、何はともあれ、まず授業への参加が最優先して考えられなけれ

ばなりません。当たり前のことですが、大学は学問を学ぶところです。しかしながら、大学生生活は決してそれだけではありません。スポーツクラブや文化サークル活動、ボランティア・奉仕活動への参加、そして友人たちとの真剣な、しかし楽しい語りなど、教室や実験室を離れた生活もまた大学生活の重要な部分です。このような授業外の生活から、授業では得られない貴重なことがらを多く学び取ることができるでしょう。あるいは将来、大学を卒業した後でより強く心に残り、生きる支えとなるのは、むしろ後者の生活で得られるものかもしれません。それはそれで意味のあることですが、その基本には学問を学ぶ真剣な姿勢が不可欠であることを忘れてはなりません。授業への参加と授業外の生活の両者が相俟って、はじめて皆さんの大学生活は充足するのだと言えます。私は、皆さんがこれから始まる大学生活を有意義に送るために、もう一度みずから入学の目的を確認し、積極的に授業へ参加すると同時に自主的に授業外の活動に取り組まれることを切に希望します。今年の秋で創立124年を迎える本学の長い歴史を創って来たのは、そのような明確な目的意識をもち、積極的且つ自主的な学生生活を送った多くの卒業生たちでした。

すでに皆さんは受験に際して、受験情報誌や「大学案内」等で本学のことについて多くの知識を得ているのではないかと思います。そうは思いますが、皆さんがこれから学ぶお茶の水女子大学がどういう大学であるか、私から改めて本学の歴史と特色を簡単に述べておきたいと思えます。

我が国最初の女性の高等教育機関として明治8年(1875年)の創立以来、本学は我が国の女子教育の先導を務めてきました。第2次大戦後の学制改革によって、昭和24年(1949年)にお茶の水女子大学に変わるまでは、東京女子師範学校、東京女子高等師範学校としてもっぱら女性教員の養成を行って来ました。お茶の水女子

大学は教員養成学校から変わって総合大学として新たな出発をしたのですが、その後もしばらくの間は多くの卒業生が小学校・中学校・高等学校などに出て行き、我が国の教育界で本学の卒業生のはたしている役割は極めて大きなものがあります。皆さんの中に本学卒業の先生に教わったという人も少なくないでしょう。しかしながら、ご存じのように、少子化が進み、高等学校以下の生徒数が減少するにつれて教員の需要が減り、近年では教育界に出て行く人は極端に少なくなりました。現在では、一般企業や出版・報道関係等に就職したり、公務員になる卒業生が圧倒的に増え、卒業後の進路は随分多様化し、広範囲になっています。年々卒業生たちが新たに開拓する分野が多く、ある意味では、新制大学として発足後50年を経てようやく教員養成学校からの脱皮が完全に終わったと言ってよいと思います。幸いそれら多方面に進出した本学の卒業生に対する社会の各層からの評価は高く、最近の女子大生を取り巻く社会の冷たく厳しい風潮の中で求人への依頼が数多く寄せられ、まことにありがたいことと感謝しています。それも皆、実は東京女子師範学校、東京女子高等師範学校以来の多数の卒業生たちが営々と築きあげて来た長い伝統があればこそ、教員のみならずさまざまな分野で活躍してきた、現に活躍中の卒業生が、本学の伝統に培われた自主・自立の精神を保持してそれぞれの分野でみずからの責任をはたし、社会の人々の厚い信頼をかり得ているからであります。

この自主・自立の精神の獲得こそ、実は女子大学の最も大きな特色であると言えます。男女共学のいわゆる共学大学と比較して、女子大学のメリット・デメリットについては、これまで多くの人々によって多くのことが論じられています。その中で、私が女子大学の最大のメリットと思うのは、自主・自立の精神に根ざした女性のリーダーシップの養成であろうと思います。もちろん共学の大学にも多くの女子学生が学ん

でいますし、たくさんの優秀な女性が育っています。しかしながら、世俗的な男女分業論や男女不平等論、ないしは無意味な女性庇護論などがいまだに幅をきかせている一般の共学大学よりは、ゼミ・実験は言うに及ばず、サークル活動・文化祭などキャンパス・ライフのあらゆる面で、女性みずからの主体性と積極性を不可欠とする女子大学は、女性のリーダーシップの養成に最もよい環境にあると言えます。いま世界的に女子大学の存在が見直されているゆえんがここにあります。現実問題として、今後、少子化がますます深まるにつれて、これまで以上に広い分野で女性の活躍が期待されています。皆さんはその社会的要請に確実に応えなければなりません。現在、大学あるいは短期大学で学んでいる女子学生は、文部省の平成10年度の「学校基本調査」によれば、604校の4年制国公立大学の大在生約270万人中、女子学生の数は約93万人（34.4%）であり、538校の短期大学では約42万人中の約38万人（90.5%）が女子学生です。大学・短大合わせれば、全体の約42%が女子学生で、この大学・短大で女子学生の占める比率は今後さらに増大するものと推測されます。あるいは近い将来、大学等で高等教育を受ける男女比が逆転するかも知れません。女性の社会的な責任はますます増大して行くでしょう。

先程、本学の発足は明治8年と申しましたが、その発足に当たっては、明治8年の2月2日、明治天皇の皇后、すなわち昭憲皇太后が下賜された5000円がもとになって設立が始められました。つまり、女性によって創られた女性のための学校が本学の前身です。そして、同年の11月29日には校舎が落成して皇后をお迎えして開校式を行い、翌明治9年2月15日には「みがかずば玉もかがみもなにかせん学びの道もかくこそありけれ」のうたがくだされました。これが現在も歌われている本学の校歌です。「学びの道」で怠りなく切磋琢磨せよと教えられたこの歌の

精神は、時代と女性の置かれている状況の違いはあっても、いまだに脈々と生き続けているものであり、むしろ今こそより強く求められていると言えましょう。

間違いなく21世紀社会の主役であるあなた方は、これから始まる本学の生活の中で、どうか心を引き締めて、本学が長く伝えて来た女性の自主・自立の精神をみずからのものとして鍛え、課せられた重い責任に耐え得る人になって欲しいと心から希望して、私の告辞を終わります。

平成11年4月9日

お茶の水女子大学長 佐藤 保

大 学 院

今日ここに、お茶の水女子大学大学院人間文化研究科の学生として入学を許可された新入生は、博士前期課程6専攻の251名、後期課程5専攻の103名、合計354名の諸君です。また外国人留学生は、前期課程で24名、後期課程で17名の計41名、全体の約12%を占めています。全体として人間文化研究科は、毎年すこしずつ数を増やしながらい新しい学生諸君を迎えています。本学大学院で研究することを希望する学生が増え続けることをうれしく思うと同時に、研究指導に当たられる先生方の責任と負担がますます重くなって行くのを感じています。今年度の新しい動きとして、後期課程で元の比較文化学専攻を改組した比較社会文化学専攻と国際日本学専攻が新たに発足し、昨年度までの後期課程4専攻から5専攻に拡大しました。昨年より今年の入学者の数が例年よりやや多めに増えたのは、この改組が大きな原因になっています。それはともかく、先程数が読み上げられたように、この二つの新専攻には51名の学生諸君が進学しました。その人たちは両専攻の栄えある第1回生ということになります。

さて、あなたがたはいずれも、それぞれの分

野で高度な専門的研究を行うことを目的として、大学院に進んで来られたものと思います。前期課程であろうと後期課程であろうと、研究の内容に質的な差はあっても、研究志向の目的自体に違いはありません。したがって、大学院のそれぞれの課程で研究を行い、その研究成果をまとめて修士あるいは博士の学位論文を作成することが、あなたがたに課せられた義務です。それが十分できる能力と将来性をそなえていると判定されて学部あるいは前期修士課程から進学したわけですから、この義務は厳格に履行されなければなりません。

学部学生に比べれば、あなたがたは相対的に学問研究に対する意欲と目的意識は明確であり、研究することについての academic discipline を積んでいるはずですから、一日も早く十分に研究計画を練って、ぜひとも定められた期間内に学位を取得されるよう期待し、且つ要望します。

さらにもう一つ私の希望を述べておきたいと思います。それは簡単に言えば、あなたがたに広い視野をもつ専門家になって欲しいということです。ここで言う専門家は、決して大学や研究機関等に属する研究者だけをさしているのではありません。企業・会社で働く人、あるいは無職の家庭人をも含んで、professionalな能力（たとえ潜在能力であっても）を身につけている人すべてをさします。そして「広い視野をもつ専門家」とは、少なくとも、自分の直接の専門を超えた他の分野の学問・文化にもたえず関心を抱き続けるような、そういう柔軟な頭をもつ専門家のことで、あなたがたがそのような人に育って欲しいというのが、私の希望です。先ほど申しましたように、大学院で「高度な専門的研究を行うこと」があなたがたに求められる最も基本的なことであることは、いまさら言うまでもありません。すなわち、自分の専門をもたない人、あるいはもてない人は、大学院で学ぶ資格のない人と言えます。しかしながら、た

とえ専門ははっきりしていても、既成の固定した、狭隘な視野でしかものを考えられない専門家は、今後ますます多様化し複雑化して行くであろう21世紀の学問研究の諸分野で、はたして必要な専門家として生き残れるでしょうか。これからの学問文化を支え、新しいそれらを創り出して行くのは、若いあなたがたです。少子化、高齢化がますます進むに違いない21世紀は、社会のあらゆる分野で女性のパワーを必要とするでしょう。中国の毛沢東が言った、「女性は天の半分を支える」という状況が必ずや到来すると思われまふ。あなたがたは男性と互いに協力しあって学問文化を進展させ、次の世代に伝える責任を負わなければなりません。その際に単なる知識の伝達者で終わるか、creativeな専門家として学問文化の発展に寄与する可能性をもつか否かは、この他の分野への飽くなき関心の有無にあるのではないかと、私は考えます。

以上の私の考えは極めて概括的で、あまりにも専門家を一般化している嫌いがあります。もちろん、学問の分野によって研究のありようにそれぞれ違いがあることは、私も十分承知しているつもりです。特に、私の意見に対して、若いうちには他のことに気を取られることなく、ただひたすら自分の専門に没頭しなければ、到底一人前の専門家にはなれないと、厳しい反論が出てくることも覚悟の上です。確かにそのような反論を一概に否定することはできません。それにも拘わらず私が広い視野と関心にこだわるのは、それが人間の叡知と人格に関連するからにほかなりません。たとえ天才的な優れた専門家といえども、一人の人間であることに変わりはないわけですから、まず人々に信頼される優れた叡知と人格をそなえた専門家になって欲しい、そうなる努力をして欲しいと言っているのです。我々は、優れた専門家ほど広い視野をもち、他の分野についても深い理解を示していること、そしてそのような人々の叡知あふれる人格が我々を魅了し、学問・文化全般の発展に大

きな寄与をしている例をたくさん知っています。私はあなたがたのすべてに、そのような専門家を模範とし、広く人々に信頼される人に育って欲しいと希望します。

最近私が目にしたある文章の中（『学士会会報』1999-II、東北大学総長阿部博之「今日の卒業生の幸運を思う」）に、昭和12年（1937年）に哲学者の三木清が記した次のような一文（『文芸春秋』所載）が引用されていました。

今日の学校は1階級ずつ低下し、高等学校が中学になり、大学が高等学校になった、と言っている。かような低下は直接的にはいわゆる『知識』に関することではないであろう。低下したのは主として学生の『知能』である。（中略）いわゆる学力は低下しないにしても、それが知能の発達に益しないことはしばしばいわれている通りである。

ここで言われている「知能」が私の言う叡知です。「知識」は学力であり、専門的な情報や知見です。求められているのは、「知識」を十二分に運用する「知能」の発達です。鋭利ではあっても偏屈頑迷な天才より、叡知豊かな地道な研究者の方が、世のため人のためにはずっと貴重な、役立つ存在であると私は思います。

人間文化研究科はそれぞれの専攻に多様な専門分野の先生方が所属して、あなたがたの指導に当たられます。学部より前期課程が、前期課程より後期課程の方が、学際性、多様性が高くなっています。あなたがたはどうか、この人間文化研究科の組織や仕組みをうまく活用して、他への興味と関心をいつまでも失わずに、最初に私が述べた学位取得のための精進をしてください。後で悔いることのないよう、皆さんが慎重な計画のもとに充実した大学院生活を送れるよう心から祈念して、私の告辞を終わります。

平成11年4月9日

お茶の水女子大学長 佐藤 保

学 内 規 則

○平成11年お茶の水女子大学規則第16号

お茶の水女子大学大学院学則の一部を改正する学則を次のように定める。

平成11年3月25日

お茶の水女子大学長 佐 藤 保

お茶の水女子大学大学院学則の一部を改正する学則（案）

お茶の水女子大学大学院学則（昭和38年4月24日制定）の一部を次のように改める。

第5条中「比較文化学専攻」を「比較社会文化学専攻 に改める。

国際日本学専攻」

別表第1（第6条関係）中

博士 後 期 課 程	比較文化学専攻	19 人	57 人	を
	人間発達科学専攻	15 人	45 人	
	人間環境科学専攻	16 人	48 人	
	複合領域科学専攻	13 人	39 人	
	計	63 人	189 人	
合 計		259 人	581 人	

博士 後 期 課 程	比較社会文化学専攻	18 人	54 人	に改める。
	国際日本学専攻	11 人	33 人	
	人間発達科学専攻	15 人	45 人	
	人間環境科学専攻	16 人	48 人	
	複合領域科学専攻	13	39	
計		73 人	219 人	
合 計		269 人	611 人	

別表第2（第9条の3関係）の比較文化学専攻の表を次のように改める。

比較社会文化学専攻

講座名	授 業 科 目	単位数			単位数
比 較 社 会 学	比較社会分析論	4	表 象 芸 術 論	西洋美術論演習	4
	比較社会分析論演習	4		比較造形論	4
	社会コミュニケーション論	4		比較造形論演習	4
	社会コミュニケーション論演習	4		西洋服飾論	4
	文化構造論	4		西洋服飾論演習	4
	文化構造論演習	4		比較舞踊論	4
	東洋社会論	4		比較舞踊論演習	4
	東洋社会論演習	4		舞踊表現論	4
	東洋歴史文化論	4		舞踊表現論演習	4
					民族舞踊論
			民族舞踊論演習	4	

論	東洋歴史文化論演習	4	比較音楽論	4	
	イスラム社会論	4		比較音楽論演習	4
	イスラム社会論演習	4		音楽芸術論	4
	西洋社会論	4		音楽芸術論演習	4
	西洋社会論演習	4		音楽表現論	4
	社会的ネットワーク論	4		音楽表現論演習	4
	社会的ネットワーク論演習	4		器楽演奏論	4
	比較都市社会論	4		器楽演奏論演習	4
	比較都市社会論演習	4		西洋芸術文化論	4
	比較地域社会論	4		西洋芸術文化論演習	4
	比較地域社会論演習	4			
	ラテンアメリカ社会論	4			
	ラテンアメリカ社会論演習	4			
	国際文化論	比較思想論		4	科学文化論
比較思想論演習		4	基礎概念論演習	4	
西洋文化論		4	理論分析論	4	
西洋文化論演習		4	理論分析論演習	4	
西洋言語文化論		4	実験科学方法論	4	
西洋言語文化論演習		4	実験科学方法論演習	4	
西洋言語表現論		4	応答相関論	4	
西洋言語表現論演習		4	応答相関論演習	4	
アジア言語文化論		4	比較生命科学	4	
アジア言語文化論演習		4	比較生命科学演習	4	
アジア比較文学論		4	非線形物質科学	4	
アジア比較文学論演習		4	非線形物質科学演習	4	
アジア言語芸術論		4	自然情報認識論	4	
アジア言語芸術論演習		4	自然情報認識論演習	4	
英語圏理論文化学		4	情報検索論	4	
英語圏理論文化学演習		4	情報検索論演習	4	
イギリス言語文化論		4	情報処理論	4	
イギリス言語文化論演習		4	情報処理論演習	4	
英語圏言語表現論		4	数理認識論	4	
英語圏言語表現論演習		4	数理認識論演習	4	
アメリカ言語文化論		4	数理表現論	4	
アメリカ言語文化論演習		4	数理表現論演習	4	
フランス文化論		4	代数情報論	4	
フランス文化論演習		4	代数情報論演習	4	
ドイツ文化論		4	数理構造論	4	
ドイツ文化論演習		4	数理構造論演習	4	
テクスト言語学		4	空間構造論	4	
テクスト言語学演習		4	空間構造論演習	4	
英語語彙論		4	応用解析論	4	
英語語彙論演習		4	応用解析論演習	4	
			無限次元解析論	4	
			無限次元解析論演習	4	
			確率統計論	4	
			確率統計論演習	4	
		幾何構造解析論	4		
		幾何構造解析論演習	4		
	比較芸術論	4			
	比較芸術論演習	4			
	西洋美術論	4			

国際日本学専攻

講座名	授 業 科 目	単位数	分		
総 合 日 本 学	国際日本学研究論	4	析 論	舞踊文化分析論	4
	国際日本学研究論演習	4		舞踊文化分析論演習	4
	日本文学原論	4		服飾文化分析論	4
	日本文学原論演習	4		服飾文化分析論演習	4
	日本語文化論	4		地域文化研究論	4
	日本語文化論演習	4		地域文化研究論演習	4
	日本生活文化論	4		現代文学環境論	4
	日本生活文化論演習	4		現代文学環境論演習	4
	日本古代文化論	4		文化情報伝達論	4
	日本古代文化論演習	4		文化情報伝達論演習	4
	日本中近世文化論	4	応 用 日 本 言 語 論	日本伝統芸能論	4
	日本中近世文化論演習	4		日本伝統芸能論演習	4
	日本近代文化論	4		比較言語教育論	4
	日本近代文化論演習	4		比較言語教育論演習	4
	日本文化基層論	4		言語教育方法論	4
	日本文化基層論演習	4		言語教育方法論演習	4
	日本中世社会史論	4		日本語分析論	4
	日本中世社会史論演習	4		日本語分析論演習	4
	倫理思想研究論	4		日本語教育論	4
	倫理思想研究論演習	4		日本語教育論演習	4
日 本	国際日本分析研究論	4	言 語 論	音声コミュニケーション論	4
	国際日本分析研究論演習	4		音声コミュニケーション論演習	4
	日本社会分析論	4		第二言語習得論	4
	日本社会分析論演習	4		第二言語習得論演習	4
	日本経済分析論	4		日英比較語用論	4
	日本経済分析論演習	4		日英比較語用論演習	4
	文化思想分析論	4		日中比較語用論	4
	文化思想分析論演習	4		日中比較語用論演習	4
			翻訳言語表現論	4	
			翻訳言語表現論演習	4	

附 則

- この学則は、平成11年4月1日から施行する。
- 改正前の大学院人間文化研究科比較文化学専攻は、改正後の第5条の規定にかかわらず、平成11年3月31日に当該専攻に在学する学生が当該専攻に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 改正後の第6条別表第1に掲げる博士後期課程の項及び合計の項に定める収容定員は、同条の規定にかかわらず、平成11年度から平成12年度までは、次表のとおりとする。

専 攻	平成11年度	平成12年度
	収容定員	収容定員

博士 後期 課程	比較社会文化学専攻	18人	36人
	国際日本学専攻	11人	22人
	人間発達科学専攻	30人	45人
	人間環境科学専攻	32人	48人
	複合領域科学専攻	39人	39人
	計	130人	190人
	合計	522人	582人

○平成11年お茶の水女子大学規則第17号

お茶の水女子大学毒物及び劇物管理規則を次のように定める。

平成11年3月25日

お茶の水女子大学長 佐藤 保

お茶の水女子大学毒物及び劇物管理規則

(目的)

第1条 この規則は、お茶の水女子大学（以下「本学」という。）における毒物及び劇物（以下「毒物等」という。）の管理に関し、必要な事項を定め、もって保健衛生上の危害を未然に防止することを目的とする。

(定義)

第2条 この規則における用語の定義については、次の各号に掲げるところによる。

- 一 「毒物」及び「劇物」とは、毒物及び劇物取締法（昭和25年法律第303号）第2条第1項及び第2項で定めるものをいう。
- 二 「部局」とは、事務局、学生部、文教育学部、理学部、生活科学部、大学院人間文化研究科、附属図書館、ジェンダー研究センター、生活環境研究センター、保健管理センター、附属高等学校、附属中学校、附属小学校及び附属幼稚園をいう。
- 三 「部局長」とは、前号に規定する部局の長をいう。

(学長の責務)

第3条 学長は、本学における毒物等による事故発生の防止及び安全の確保に関する業務を総括する。

(任務)

第4条 本学の職員は、この規則に定める毒物等の取扱い及び保管管理に注意し、危害の防止に努めなければならない。

(毒物等管理責任者等)

第5条 毒物等の適正な取扱い及び保管管理を確保するため、毒物等管理責任者（以下「管理責任者」という。）を置き、各部局長をもつて充てる。

- 2 管理責任者を補助するため、毒物等管理責任補助者（以下「管理責任補助者」という。）を置き、各学科主任等をもつて充てる。
- 3 管理責任補助者は、毒物等の管理を直接に行わせるため、当該所属学科等の職員の中から毒物等を使用する研究室等ごとに毒物等管理担当者（以下「管理担当者」という。）を指名するものとする。
- 4 管理責任補助者は、第3項の管理担当者を指名した場合は、別記様式第1により当該管理責任者に報告するものとする。
- 5 管理担当者は、毒物等の適正な取扱い及び保管管理を維持するよう努めるものとする。

(学内の管理体制)

第6条 学内管理体制については、別記第1のとおりとする。

- 2 管理責任者は、毒物等の取扱い等に関し、必要な指示を管理責任補助者に与え

るものとする。

3 管理担当者は、管理責任補助者の指示に従い、必要な報告を行い、必要に応じて他の職員と連携を図るものとする。

(応急の措置及び緊急連絡網)

第7条 容器の破損等により、毒物等を流出又は飛散させる等の事故を起こしたとき、又は災害及び盗難等を発見したときは、直ちに別記第2に定める緊急連絡網により報告するとともに、毒物等による危害を最小限にとどめるよう努めなければならない。

(在庫の管理)

第8条 管理担当者は、原則として毒物等を購入し、使用又は廃棄したときは、別記様式第2の毒物管理簿及び別記様式3の劇物管理簿に必要事項を記入し、保管及び管理の適正化を図る。なお、詳細については別に定めるものとする。

2 管理責任者は、必要以上の量を保管しないように注意し、在庫量については、随時確認を行うものとする。

(貯蔵設備)

第9条 毒物等を貯蔵するために、管理責任補助者が定めた場所に施錠できる堅固な保管庫を設備するものとする。

(保管庫の管理並びに容器及び毒物等の確認)

第10条 管理担当者は、保管庫の管理並びに容器及び毒物等の確認を行う際には、次の各号に掲げるところにより取り扱わなければならない。

一 保管庫の管理

イ 保管庫は常時施錠し、必要なときのみ開けること。

ロ 保管庫扉等に「医薬用外毒物」又は、「医薬用外劇物」の文字を表示すること。

ハ 毒物等以外の物は保管しないこと。

ニ 混合、混触により有毒ガスの発生、発火等の危険のある毒物等は、区別して保管すること。

二 容器及び毒物等の確認

イ 毒物等を購入又は保管する際には、毒物等とその容器に異常がないことを確認する。

ロ 容器には、「医薬用外」の文字及び毒物については赤地に白色をもって「毒物」の文字を、劇物については白地に赤色をもって「劇物」の文字を表示すること。

ハ 毒物等を他の容器に移し替える必要がある場合は、飲食物の容器は使用しないこと。また、移し替えた容器には前号の表示をするとともに、毒物等の名称を記載すること。

(毒物等の廃棄)

第11条 毒物等の廃棄は、都道府県知事等の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託し、その記録を保管しなければならない。

(定期点検等)

第12条 管理担当者は、毒物等の貯蔵及び取扱いについて、別記様式第4の毒物等点検表により6か月に1回定期点検を行い、これを記録し管理責任者に報告しなければならない。

2 前項による定期点検のほか、設備の変更又は地震等により異常が発生したときは、その都度点検を行わなければならない。

(雑則)

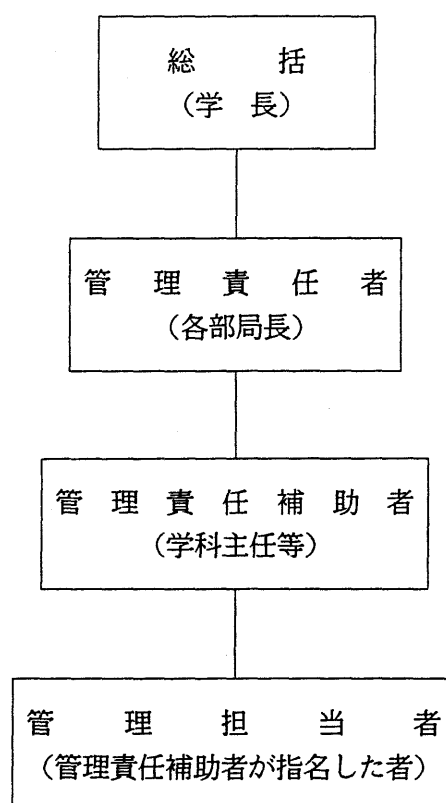
第13条 この規則に定めるもののほか、毒物等の管理に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

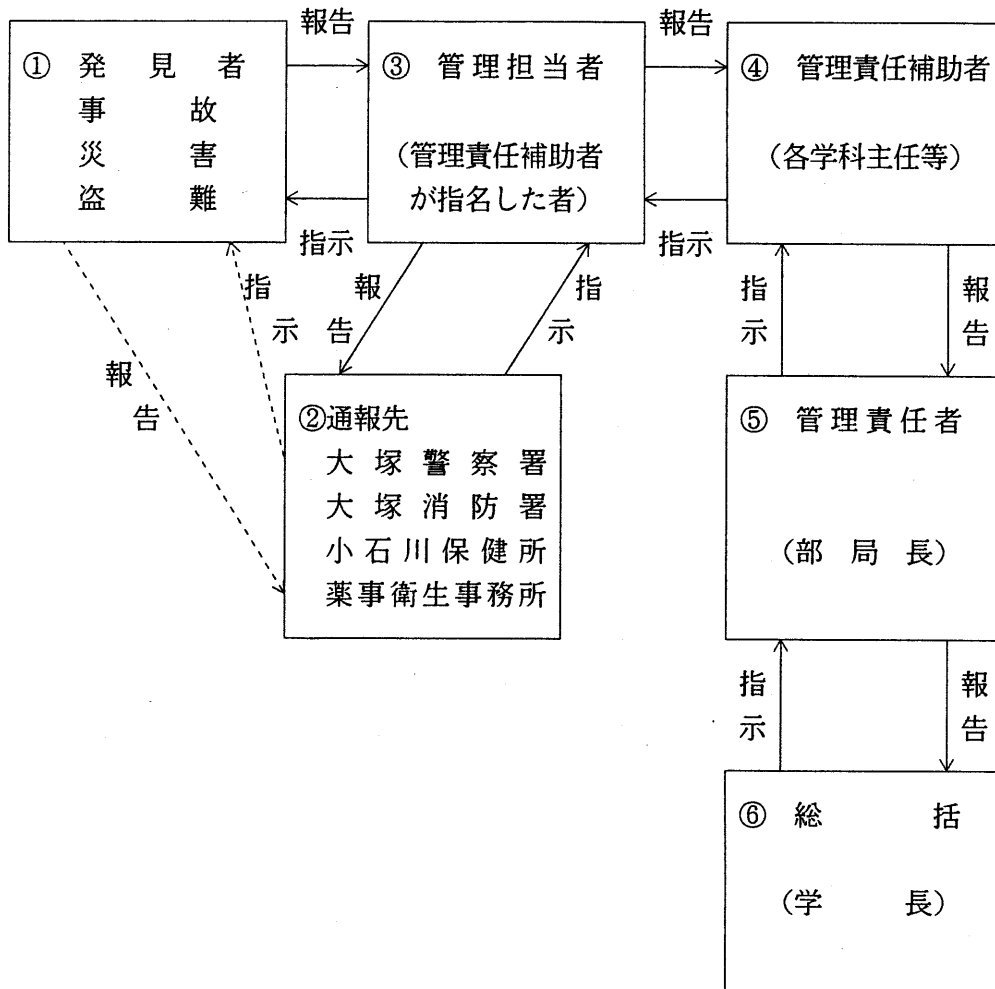
別記第1（第6条関係）

毒物等における学内管理体制



別記第2 (第7条関係)

毒物等における緊急連絡網



- 注) 1. 管理担当者は、事故等の状況を事務長又は事務室長に報告するものとする。
2. 事務長又は事務室長は、事故等の状況を庶務課長及び会計課長に報告するものとする。

別記様式第1（第5条関係）

平成 年 月 日

（管理責任者） 殿

管理責任補助者（学科主任等）

毒物等の管理担当者の指名報告書

このことについて、下記のとおり毒物等の管理担当者を指名しましたので報告します。

記

指名年月日： 平成 年 月 日

事 項	管理担当者	管理担当者	管理担当者	管理担当者
官職・氏名				
管理場所				
備 考				

別記様式第2 (第8条関係)

毒物管理簿

毒物			品名					規格			単位
								室名			
年	月	日	使用状況				使用目的	使用者	管理担当者		
			受入量	使用量	残量	開栓中残量					

別記様式第3 (第8条関係)

劇 物 管 理 簿

劇 物			品 名					規 格			単 位
								室 名			
年	月	日	使 用 状 況				使 用 目 的	使 用 者	管 理 担 当 者		
			受 入 量	使 用 量	残 量	開 栓 中 残 量					

別記様式第4（第12条関係）

毒物等点検表

研究室	
等名	

確認事項		確認年月日					
		・	・	・	・	・	・
貯蔵設備	鍵の状態						
	常時施錠						
	「医薬用外毒物」・「医薬用外劇物」の表示						
	固定						
	飛散・流出防止対策						
	他の物との区別						
	転倒防止対策						
	改修・異常事態発生時の確認						
容器チェック	「医薬用外毒物」・「医薬用外劇物」の表示						
	飲食物の容器を使用していないか						
	容器の異常						
応急の措置	取扱品目についての応急の措置						
廃棄	廃棄は適正か						
確認印	管理担当者印						
	管理責任補助者印						

○平成11年お茶の水女子大学規則第18号

お茶の水女子大学附属図書館運営委員会規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成11年3月25日

お茶の水女子大学長 佐藤 保

お茶の水女子大学附属図書館運営委員会規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学附属図書館運営委員会規程（昭和29年2月3日制定）の一部を次のように改正する。

第2条第1項第6号を第7号とし、第5号の次に次の1号を加える。

六 情報処理センター長

附 則

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

○平成11年お茶の水女子大学規則第19号

お茶の水女子大学事務組織の変更に伴う関係規程等の一部を改正する規程を次のように定める。

平成11年3月29日

お茶の水女子大学事務局長 橋本幹夫

お茶の水女子大学事務組織の変更に伴う関係規程等の一部を改正する規程

(お茶の水女子大学事務組織規程の一部改正)

第1条 お茶の水女子大学事務組織規程(平成2年3月28日制定)の一部を次のように改正する。

第15条中「課」を「課(入学主幹付を含む。)」に改める。

(お茶の水女子大学事務組織細則の一部改正)

第2条 お茶の水女子大学事務組織細則(平成3年7月26日制定)の一部を次のように改正する。

第3条第1項を次のように改める。

第3条 会計課に、その事務を分掌させるため、次の5係を置く。

総務・管財係

司計係

出納係

給与係

用度係

同条第2項中「総務係」を「総務・管財係」に改め、同項中第10号を第19号とし、第9号を第18号とし、第8号の次に次の9号を加える。

- (9) 国有財産の管理及び処分に関する事。
- (10) 国有財産の貸借に関する事。
- (11) 国有財産等所在市町村交付金に関する事。
- (12) 公務員宿舎に関する事。
- (13) 学内の警備に関する事。
- (14) 消防計画に関する事。
- (15) 防災委員会に関する事。
- (16) 学内の環境整備に関する事。
- (17) 学内の交通規制及び駐車場に関する事。

同条第6項中第5号を第7号とし、第4号の次に次の2号を加える。

- (5) 廃棄物の処理及び再利用に関する事。
- (6) 学内の清掃に関する事。

同条第7項を削る。

第3条の次に次の1条を加える。

第3条の2 会計課に専門職員(契約担当)を置く。

2 専門職員(契約担当)は、上司の命を受け、会計課の所掌する契約に関する専門的事項の処理に当たる。

第8条の次に次の1条を加える。

第8条の2 入学主幹の統括の下に、専門職員（入学試験担当）を置く。

2 専門職員（入学試験担当）は、上司の命を受け、入学者選抜に関する専門的
事項の処理に当たる。

（お茶の水女子大学事務改善研究委員会要項の一部改正）

第3条 お茶の水女子大学事務改善研究委員会要項（昭和52年4月13日制定）の一
部を次のように改正する。

第10条次表中「会計課総務係長」を「会計課総務・管財係長」に改める。

（お茶の水女子大学健康安全管理規程の一部改正）

第4条 お茶の水女子大学健康安全管理規程（昭和52年5月25日制定）の一部を次
のように改正する。

別表第1の表中「会計課総務係長」を「会計課総務・管財係長」に改める。

（お茶の水女子大学放射線障害防止規程の一部改正）

第5条 お茶の水女子大学放射線障害防止規程（昭和46年2月24日制定）の一部を
次のように改正する。

別図2（第16条の2関係）の表中

管財係長又は 会計課長補佐	を	総務・管財係長 又は会計課長補佐	に改める。
------------------	---	---------------------	-------

（お茶の水女子大学防災規則の一部改正）

第6条 お茶の水女子大学防災規則（昭和61年3月18日制定）の一部を次のように
改正する。

別表第2（第19条関係）の表中「○管財係」を「○総務・管財係」に、「○会
・総務係」を「○会・総務・管財係」に改める。

（お茶の水女子大学会計監査要項の一部改正）

第7条 お茶の水女子大学会計監査要項（昭和61年2月25日制定）の一部を次のよ
うに改正する。

第4の第1号中「会計課総務係長」を「会計課総務・管財係長」に改める。

（お茶の水女子大学予算執行職員の補助者の官職指定及び事務の範囲の基準を定
める規程の一部改正）

第8条 お茶の水女子大学予算執行職員の補助者の官職指定及び事務の範囲の基準
を定める規程（昭和61年2月4日制定）の一部を次のように改正する。

別表第1の表中「会計課司計係長 出納係長 給与係長 用度係長 管財係長」	を	「会計課総務・管財係長 司計係長 出納係長 給与係長 用度係長」	に改める。
--	---	--	-------

別表第2の表中「会計課司計係長 出納係長 給与係長 用度係長 管財係長」	を	「会計課総務・管財係長 司計係長 出納係長 給与係長 用度係長」	に改める。
--	---	--	-------

別表第3の表中「会計課司計係長」を「会計課総務・管財係長」に改める。

用度係長 を 司計係長 に改める。
管財係長」 用度係長」
別表第4の表中「会計課司計係長 「会計課総務・管財係長
出納係長 司計係長
給与係長 を 出納係長 に改める。
用度係長 給与係長
管財係長」 用度係長」
別表第5の表中「会計課司計係長 「会計課総務・管財係長
用度係長 を 司計係長 に改める。
管財係長」 用度係長」

(お茶の水女子大学金庫管守要項の一部改正)

第9条 お茶の水女子大学金庫管守要項(昭和41年11月1日制定)の一部を次のように改正する。

別表中「総務係長」を「総務・管財係長」に改める。

附 則

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

○平成11年お茶の水女子大学規則第20号

お茶の水女子大学公印規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成11年3月29日

お茶の水女子大学事務局長 橋本幹夫

お茶の水女子大学公印規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学公印規程（平成10年10月30日制定）の一部を次のように改正する。

別表第2（第5条・第7条関係）の表中

お茶の水女子大学長	30	一般	庶務課長	庶務係長	
お茶の水女子大学長	21	特別	学生課長	学生係長	証明用

を

お茶の水女子大学長	30	一般	庶務課長	庶務係長	
お茶の水女子大学長	30	特別	学務課長	教務係長	証明用
お茶の水女子大学長	21	特別	学生課長	学生係長	証明用
お茶の水女子大学長	30	特別	大学院室長	大学院係長	証明用

に、

お茶の水女子大学会計課長	20	一般	会計課長	総務係長	
--------------	----	----	------	------	--

を

お茶の水女子大学会計課長	20	一般	会計課長	総務・管財係長	
--------------	----	----	------	---------	--

に改め、

お茶の水女子大学大学院理学研			理学部		
----------------	--	--	-----	--	--

究科長	30	一般	事務長	総務係長	
-----	----	----	-----	------	--

及び

お茶の水女子大学大学院家政学 研究科長	30	一般	生活科学部 事務長	総務係長	
------------------------	----	----	--------------	------	--

を削る。

附 則
この規程は、平成11年4月1日に施行する。

○平成11年お茶の水女子大学規則第21号

お茶の水女子大学文書管理規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成11年3月29日

お茶の水女子大学事務局長 橋本幹夫

お茶の水女子大学文書管理規程の一部を改正する規程

お茶の水女子大学文書管理規程（昭和54年4月16日制定）の一部を次のように改正する。

本則中「文書係」を「庶務係」に、「文書係長」を「庶務係長」に改める。

第2条第3項第1号中「女性文化研究センター」を「ジェンダー研究センター」に改める。

第4条中「行うことを旨としなければならない。」を「行わなければならない。」に改める。

第9条第1項中「ただし、休日及び勤務時間外においては、別に定めるところにより、宿日直勤務者において切受し、文書係に引き継ぐものとする。」を削る。

第11条第1項中「茶女大女第 号 女性文化研究センター」を「茶女大ジ第 号 ジェンダー研究センター」に改める。

第17条第2項中「、及び回付課欄に課名」を削り、同条第3項中「原議書に回付月日を記入するとともに、」を削り、「回付課」を「合議」に改める。

別表第1の表各部局等共通のもの欄中「女性文化研究センター」を「ジェンダー研究センター」に改める。

同表中学生部関係の項を次のように改める。

学生部 関係	1 教授会の議に基づく学生の休学及び復学の許可	学 長	学生部長
	2 教授会の議に基づく科目等履修生及び研究生等の入学及び退学の許可	学 長	学生部長
	3 入学料、授業料及び寄宿料の免除並びに授業料の徴収猶予等の許可	学 長	学生部長
	4 奨学生の推薦、異動等に関するもの	学 長	学生部長
	5 学生の入寮及び退寮の承認	学 長	学生部長
	6 就職希望者の推薦に関するもの	学 長	学生部長

同表中学部関係の項を削る。

別記様式中「（用紙B5）」を「（用紙A4）」に改める。

別記様式第4号（表）の表を次のように改める。

（略）

附 則

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

至急文書
付せん

(表)

お茶の水女子大学原議書

取扱：秘 部外秘 普通		文書記号番号：茶女大 第 号					
発 送 種 別	普通 速達 書留 親展 小包 航空 使送	決 裁：平成 年 月 日			公印押印		永 久 年 平成 年 月まで
		日 付：平成 年 月 日			保 存 期 間		
		発 送：平成 年 月 日					
		完 結：平成 年 月 日					
先方文書の日付：平成 年 月 日付				先方の文書の記号番号： 第 号			
起 案：平成 年 月 日				起案部課・係名：			
件 名							
受 信 者				発 信 者			
上記のことについて別紙のように してよろしいか、伺います。 します。							
学 長	事務局長 学生部長	課 長	課長補佐 専門員	室 長 専門職員	係 長 専門職員	主任・係員	起 案 者
部 局 長 センター長	校 園 長	教 頭	事 務 長	室 長			
合 議 ・ 供 閲							

◆各種委員会委員◆

1. ()は事務担当課
2. *は委員長又は議長
3. 任期無記入は官職指定
4. 官職は最新のを掲載
(編集集中の移動についてもできる限り補正した)

評議会 (庶務課)

官職等	氏名	任期
学 長	*佐藤 保	9. 2.16~13. 2.15
文教育学部 長	上野 浩道	10.10. 1~12. 9.30
理学部長	平野 恒夫	10. 4. 1~12. 3.31
生活科学部 長	板倉 壽郎	10.10. 1~12. 9.30
大学院人間文化研究科 長	徳丸 吉彦	9. 4. 1~12. 3.31
附属 図書館長	小池 三枝	10.11. 1~12.10.31
附属 学校部長	石川 宏	11. 4. 1~14. 3.31
文教育学部 選出評議員	市古 夏生	9.10. 1~11. 9.30
	山本 秀行	9.10. 1~11. 9.30
	中村 弓子	10.10. 1~11. 9.30
理学部 選出評議員	柴田 文明	9.10. 1~11. 9.30
	松本 勲武	9.10. 1~11. 9.30
	真島 秀行	9.10. 1~11. 9.30
生活科学部 選出評議員	富田 守	10.10. 1~12. 9.30
	袖井 孝子	10.10. 1~12. 9.30
	駒城 素子	10.10. 1~12. 9.30
大学院人間文化研究科 選出評議員	天野 正子	11. 4. 1~13. 3.31
	平野 由紀子	11. 4. 1~13. 3.31

評議会規則第3条に定める者等

官職等	氏名	任期
学生部長・学長補佐	福田 豊	
学長補佐	大口 勇次郎	
カリキュラム委員会 委員長	竹尾 富貴子	
ジェンダー研究センター長	原 ひろ子	
生活環境研究センター長	倉田 忠男	
事務局長	橋本 幹夫	

基本計画委員会 (庶務課)

官職等	氏名	任期
学 長	*佐藤 保	
文教育学部 長	上野 浩道	
理学部長	平野 恒夫	
生活科学部 長	板倉 壽郎	
大学院人間文化研究科 長	徳丸 吉彦	
附属 図書館長	小池 三枝	
附属 学校部長	石川 宏	
学生部長	福田 豊	
事務局長	橋本 幹夫	

自己点検・評価検討委員会 (庶務課)

官職等	氏 名	任 期
学 長	*佐藤 保	
学長補佐	大口 勇次郎	
文教育学部 部 長	上野 浩道	
理学部長	平野 恒夫	
生活科学 部 長	板倉 壽郎	
大学院人間 文化研究科 長	徳丸 吉彦	
文教育学部 選出委員	平野 由紀子	
理学部 選出委員	細矢 治夫	
生活科学部 選出委員	無藤 隆	
大学院人間 文化研究科 選出委員	岡崎 眸 今野 美智子	
ジェンダー 研究セン ター長	原 ひろ子	
生活環境 研究セン ター長	倉田 忠男	
附 属 図書館長	小池 三枝	
附 属 学校部長	石川 宏	
学生部長	福田 豊	
事務局長	橋本 幹夫	

国際交流委員会 (庶務課)

官職等	氏 名	任 期
学 長	*佐藤 保	
文教育学部 部 長	上野 浩道	
理学部長	平野 恒夫	
生活科学 部 長	板倉 壽郎	
大学院人間 文化研究科 長	徳丸 吉彦	
文教育学部 選出委員	本郷 逕子	11. 4. 1~12. 3.31
理学部 選出委員	藤原 正彦	11. 4. 1~13. 3.31
生活科学部 選出委員	柴坂 寿子	
大学院人間 文化研究科 選出委員	大塚 常樹 室伏 きみ子	
学生部長	福田 豊	
文教育学部 助 教 授	村松 賢一	11. 4. 1~13. 3.31
事務局長	橋本 幹夫	

将来構想検討委員会 (庶務課)

官職等	氏 名	任 期
文教育学部 選出委員	岩崎 千鶴 片岡 康子	10.10. 1~12. 9.30
理学部 選出委員	松本 勲武 永野 肇	
生活科学部 選出委員	會川 義寛 久保田 紀久枝	
大学院人間 文化研究科 選出委員	坂元 章 柴田 文明	10.10. 1~12. 9.30 11. 4. 1~13. 3.31
ジェンダー 研究セン ター選出委員	舘 かおる	10.10. 1~12. 9.30
生活環境 研究セン ター選出委員	富永 典子	

発明委員会 (庶務課)

官職等	氏 名	任 期
文教育学部 部 長	上 野 浩 道	
理学部長	平 野 恒 夫	
生活科学 部 長	板 倉 壽 郎	
文教育学部 選出委員	内 藤 俊 史	10. 10. 1~12. 9. 30
理学部 選出委員	細 矢 治 夫 藤 代 一 成	11. 4. 1~12. 9. 30
生活科学部 選出委員	仲 西 正 倉 田 忠 男	10. 10. 1~12. 9. 30
大学院人間 文化研究科 選出委員	村 田 容 常	11. 4. 1~13. 3. 31

組換えDNA実験安全委員会 (庶務課)

官職等	氏 名	任 期
研 究 者	*室伏 きみ子	9. 12. 16~11. 12. 15
	倉 田 忠 男	
自然 科学	根 本 心 一	
	村 田 容 常	
人文科学	佐 藤 光 子	11. 4. 1~11. 12. 15
社会科学	小 谷 眞 男	
保健管理 センター 所 長	永 川 祐 三	9. 12. 16~11. 12. 15
理学部 事務 長	高 野 佳 征	
生活科学部 事務 長	西 村 光 範	
安全主任者	馬 場 昭 次	

共同研究委員会 (庶務課)

官職等	氏 名	任 期
学 長	*佐 藤 保	
文教育学部 部 長	上 野 浩 道	
理学部長	平 野 恒 夫	
生活科学 部 長	板 倉 壽 郎	
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 長	徳 丸 吉 彦	
ジェンダー 研 究 セ ン タ ー 長	原 ひ ろ 子	
生 活 環 境 研 究 セ ン タ ー 長	倉 田 忠 男	
事務局 長	橋 本 幹 夫	

大学資料委員会 (庶務課)

官職等	氏 名	任 期
附 属 図 書 館 長	*小 池 三 枝	
文教育学部 選出委員	小 風 秀 雄	10. 4. 1~12. 3. 31
理学部 選出委員	竹 尾 富 貴 子	
生活科学部 選出委員	吉 村 佳 子	10. 11. 1~12. 3. 31
文教育学部 教 授	秋 山 光 文	10. 4. 1~12. 3. 31
文教育学部 教 授	鷹 野 光 行	
ジェンダー 研 究 セ ン タ ー 教 授	館 か お る	

事務改善研究委員会 (庶務課)

官職等	氏 名	任 期
事務局長	*橋本幹夫	
庶務課長	田中正幸	
会計課長	白井清二	
施設課長	鈴木重之	
学務課長	井深順二	
学生課長	森 廣美	
入学主幹	棚木紀雄	
庶務課 課長補佐	川島清人	
会計課 課長補佐	峯村 薫	
施設課 課長補佐	小永井 耕一	
学務課 課長補佐	中野公敏	
文教育学部 事務長	菊池昭夫	
理学部 事務長	高野佳征	
生活科学部 事務長	西村光範	
附属図書館 事務長	木谷利雄	

レクリエーション運営委員会 (庶務課)

官職等	氏 名	任 期
事務局長	*橋本幹夫	
庶務課長	田中正幸	
会計課長	白井清二	
施設課長	鈴木重之	
学務課長	井深順二	
学生課長	森 廣美	
入学主幹	棚木紀雄	
文教育学部 事務長	菊池昭夫	
理学部 事務長	高野佳征	
生活科学部 事務長	西村光範	
附属図書館 事務長	木谷利雄	
庶務課 課長補佐	川島清人	
会計課 課長補佐	峯村 薫	
施設課 課長補佐	小永井 耕一	
学務課 課長補佐	中野公敏	
研究協力 室 長	古賀 智	
大学院 事務室長	齊藤 実	
附属学校部 事務室長	柿澤秀春	

ジェンダー研究センター運営委員会 (庶務課)

官職等	氏 名	任 期
ジェンダー研究センター長	*原 ひろ子	
文教育学部 長	上野 浩道	
理学部長	平野 恒夫	
生活科学部 長	板倉 壽郎	
大学院人間文化研究科 長	徳丸 吉彦	
附 属 図書館長	小池 三枝	
ジェンダー研究センター 教授	館 かおる	
ジェンダー研究センター 教授	川嶋 瑤子	
文教育学部 選出委員	天野 正子	
理学部 選出委員	松浦 悦子	10. 4. 1~12. 3.31
生活科学部 選出委員	會川 義寛	
大学院人間文化研究科 選出委員	羽入 佐和子	11. 4. 1~13. 3.31
事務局長	橋本 幹夫	

生活環境研究センター運営委員会 (庶務課)

官職等	氏 名	任 期
生活環境研究センター長	*倉田 忠男	
文教育学部 長	上野 浩道	
理学部長	平野 恒夫	
生活科学部 長	板倉 壽郎	
生活環境研究センター 教授	五十嵐 脩	
生活環境研究センター 助教授	富永 典子	
文教育学部 選出委員	内藤 博夫	11. 4. 1~13. 3.31
理学部 選出委員	松本 勲武	
生活科学部 選出委員	會川 義寛 本間 清一	10. 4. 1~12. 3.31
大学院人間文化研究科 選出委員	馬場 昭次	11. 4. 1~13. 3.31
事務局長	橋本 幹夫	

共通機器センター運営委員会 (庶務課)

官職等	氏 名	任 期
センター長	*益田 祐一	10.12. 1~12.11.30
文教育学部 選出委員	石口 彰 杉谷 隆	10. 4. 1~12. 3.31 11. 4. 1~13. 3.31
理学部 選出委員	小林 哲幸 今井 正幸	10. 4. 1~12. 3.31 11. 4. 1~13. 3.31
生活科学部 選出委員	仲西 正 久保田 紀久枝	10. 4. 1~12. 3.31 11. 4. 1~13. 3.31
大学院人間文化研究科 選出委員	林 正男 村田 容常	11. 4. 1~13. 3.31 10. 4. 1~12. 3.31
生活環境研究センター 選出委員	倉田 忠男	11. 4. 1~13. 3.31

スペース・コレクション・システム運営委員会 (庶務課)

官職等	氏 名	任 期
文教育学部 選出委員	石 口 彰 清 水 徹 郎	10. 4. 22~12. 3. 31
理 学 部 選出委員	* 細 矢 治 夫 森 義 仁	
生活科学部 選出委員	會 川 義 寛 杉 田 孝 夫	10. 4. 22~12. 3. 31 10. 10. 1~12. 3. 31
大学院人間 文化研究科 選出委員	坂 元 章 佐 藤 浩 史	10. 4. 22~12. 3. 31
附 属 高 等 学 校 選出委員	室 岡 和 彦	
附属中学校 選出委員	松 本 純 一	
庶務課長	田 中 正 幸	
会計課長	白 井 清 二	
施設課長	鈴 木 重 之	
学務課長	井 深 順 二	

セキュアハウスメント 防止対策委員会 (庶務課)

官職等	氏 名	任 期
学長補佐	福 田 豊	
事務局長	橋 本 幹 夫	
学長補佐 指名委員	天 野 正 子 石 和 貞 男 戒 能 民 江	
事務局長 指名委員	田 中 正 幸 森 廣 美	

創立120周年記念事業特別委員会 (庶務課)

官職等	氏 名	任 期
学 長	* 佐 藤 保	
文教育学部 部 長	上 野 浩 道	
理学部長	平 野 恒 夫	
生活科学 部 長	板 倉 壽 郎	
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 研 究 科 長	德 丸 吉 彦	
文教育学部 選出委員	秋 山 光 文 窪 添 慶 文	
理 学 部 選出委員	石 和 貞 男 細 矢 治 夫	
生活科学部 選出委員	五十嵐 脩 富 田 守	
大学院人間 文化研究科 選出委員	上 野 浩 道 内 田 伸 子	
附 属 図 書 館 長	小 池 三 枝	
附 属 学 校 部 長	石 川 宏	
学生部長	福 田 豊	
事務局長	橋 本 幹 夫	

予算委員会 (会計課)

官職等	氏 名	任 期
文教育学部 部長	上野浩道	
理学部長	平野恒夫	
生活科学部 部長	板倉壽郎	
大学院人間文化研究科 長	徳丸吉彦	
文教育学部 選出委員	窪添慶文	11. 4. 1~13. 3.31
	鷹野光行	10.10. 1~12. 9.30
理学部 選出委員	浜谷望	11. 4. 1~13. 3.31
	石和貞男	10. 4. 1~12. 3.31
生活科学部 選出委員	駒城素子	10. 4. 1~12. 3.31
	袖井孝子	11. 4. 1~13. 3.31
大学院人間文化研究科 選出委員	小川昭二郎	11. 4. 1~13. 3.31
	竹尾富貴子	11. 4. 1~13. 3.31
附属図書館長	*小池三枝	
ジェンダー研究センター長	原ひろ子	
生活環境研究センター長	倉田忠男	
事務局長	橋本幹夫	
学生部長	福田豊	
会計課長	白井清二	

購入物品機種選定委員会 (会計課)

官職等	氏 名	任 期
文教育学部 選出委員	杉谷隆	
	水野勲	
理学部 選出委員	浜谷望	10. 4. 1~12. 3.31
	永野肇	
生活科学部 選出委員	倉田忠男	
	小川昭二郎	
大学院人間文化研究科 選出委員	久保田紀久枝	11. 4. 1~13. 3.31

防災委員会 (会計課)

官職等	氏 名	任 期
学 長	*佐藤保	
文教育学部 部長	上野浩道	
理学部長	平野恒夫	
生活科学部 部長	板倉壽郎	
大学院人間文化研究科 長	徳丸吉彦	
附属図書館長	小池三枝	
附属学校部長	石川宏	
学生部長	福田豊	
保健管理センター長	永川祐三	
事務局長	橋本幹夫	
庶務課長	田中正幸	
会計課長	白井清二	
施設課長	鈴木重之	
学務課長	井深順二	
学生課長	森廣美	

施設計画委員会 (施設課)

官職等	氏 名	任 期
学 長	*佐藤 保	
文教育学部 部 長	上野 浩道	
理学部長	平野 恒夫	
生活科学 部 長	板倉 壽郎	
大 学 院 人 間 文 化 研 究 科 長	徳丸 吉彦	
文教育学部 選出委員	永原 惠三 杉谷 隆	9.10. 1~11. 9.30
理 学 部 選出委員	松本 勲武 石和 貞男	11. 4. 1~13. 3.31 11. 2. 1~12. 3.31
生活科学部 選出委員	本間 清一 田中 辰明	10.11. 1~12. 3.31 10. 4. 1~12. 3.31
大学院人間 文化研究科 選出委員	山本 秀行 富永 靖徳	11. 4. 1~13. 3.31
附 属 図 書 館 長	小池 三枝	
附 属 学 校 部 長	石川 宏	
ジェンダー 研 究 セ ン タ ー 長	原 ひろ子	
生 活 環 境 研 究 セ ン タ ー 長	倉田 忠男	
事 務 局 長	橋本 幹夫	
学 生 部 長	福田 豊	
カ リ キ ュ ラ 委 員 会 長 委 員	竹尾 富貴子	

館山施設計画委員会 (施設課)

官職等	氏 名	任 期
理 学 部 長	*平野 恒夫	
文教育学部 選出委員	本田 郁子 杉山 進	10. 4. 1~12. 3.31 9.10. 1~11. 9.30
理 学 部 選出委員	清本 正人	10. 4. 1~12. 3.31
生活科学部 選出委員	久保田 紀久枝	10.10. 1~12. 9.30
理学部附属 臨海実験 所 長	根本 心一	
附 属 小 学 校 教 頭	星野 征男	
附 属 中 学 校 教 頭	井上 泰次	
附 属 高 等 学 校 教 頭	早崎 捷治	
附 属 幼 稚 園 教 頭	栴田 正子	
学 生 部 長	福田 豊	
事 務 局 長	橋本 幹夫	
会 計 課 長	白井 清二	
施 設 課 長	鈴木 重之	

廃水管理委員会 (施設課)

官職等	氏名	任期
生活環境 研究センター 一選出委員	*富永典子	9.10. 1~11. 9.30
文教育学部 選出委員	杉谷 隆	
理学部 選出委員	松浦悦子	
	浜谷 望	
	益田 祐一	
生活科学部 選出委員	久保田 紀久枝	
	仲西 正	
大学院人間 文化研究科 選出委員	永野 肇	11. 4. 1~13. 3.31
附 高等学 校選出 委員	石井 朋子	9.10. 1~11. 9.30
附属中学校 選出委員	佐々木 和枝	
会計課長	白井 清二	
施設課長	鈴木 重之	

カリキュラム委員会 (学務課)

官職等	氏名	任期
文教育学部 選出委員	耳塚 寛明	10. 4. 1~12. 3.31
	西澤 奈津子	
	村田 真弓	11. 4. 1~13. 3.31
理学部 選出委員	*竹尾 富貴子	10. 4. 1~12. 3.31
	鷹野 景子	11. 4. 1~13. 3.31
	最上 善広	
生活科学部 選出委員	會川 義寛	10. 4. 1~12. 3.31
	久保田 紀久枝	
	黒田 淑子	11. 4. 1~13. 3.31
学生部長	福田 豊	

公開講座委員会 (学務課)

官職等	氏名	任期
文教育学部 選出委員	土屋 賢二	9.12. 1~11.11.30
	岩崎 千鶴	
	坂本 佳鶴恵	10.12. 1~12.11.30
理学部 選出委員	石和 貞男	10.12. 1~12.11.30
	*小林 功佳	9.12. 1~11.11.30
	鷹野 景子	
生活科学部 選出委員	鈴木 恵美子	10.12. 1~12.11.30
	小谷 眞男	
	伊藤 美奈子	9.12. 1~11.11.30
学生部長	福田 豊	

学生委員会 (学生課)

官職等	氏名	任期
文教育学部 選出委員	平岡 公一	10. 4. 1~12. 3.31
	水野 勲	11. 4. 1~13. 3.31
	米田 俊彦	
理学部 選出委員	*山田 眞二	10. 4. 1~12. 3.31
	森 義仁	11. 4. 1~13. 3.31
	千葉 和義	
生活科学部 選出委員	藤原 葉子	10. 4. 1~12. 3.31
	小谷 眞男	11. 4. 1~13. 3.31
	永瀬 伸子	
学生部長	福田 豊	

共用体育施設等管理運営委員会 (学生課)

官職等	氏名	任期
文教育学部 選出委員	*杉山進	10. 6. 16~12. 6. 15
学生部長	福田豊	
附属 学校部長	石川宏	
会計課長	白井清二	
学生課長	森廣美	

保健管理センター運営委員会 (学生課)

官職等	氏名	任期
保健管理 センター 所長	*永川祐三	
文教育学部 選出委員	水村真由美	11. 4. 1~13. 3. 31
	本田郁子	10. 4. 1~12. 3. 31
理学部 選出委員	藤枝修子	11. 4. 1~13. 3. 31
	前田ミチエ	10. 4. 1~12. 3. 31
生活科学部 選出委員	富田守	11. 4. 1~13. 3. 31
	楡木満生	10. 4. 1~12. 3. 31
大学院人間 文化研究科 選出委員	會川義寛	11. 4. 1~13. 3. 31
附属中学校 選出委員	山梨八重子	10. 4. 1~12. 3. 31
学生部長	福田豊	
事務局長	橋本幹夫	

入学試験委員会 (入学主幹室)

官職等	氏名	任期
学長	*佐藤保	
学生部長	福田豊	
文教育学部 部長	上野浩道	
理学部長	平野恒夫	
生活科学部 部長	板倉壽郎	
文教育学部 選出委員	本田郁子	10. 4. 1~12. 3. 31
	三浦徹	11. 4. 1~13. 3. 31
理学部 選出委員	藤原正彦	10. 4. 1~12. 3. 31
	林正男	11. 4. 1~13. 3. 31
生活科学部 選出委員	杉田孝夫	10. 4. 1~12. 3. 31
	仲西正	11. 4. 1~13. 3. 31
事務局長	橋本幹夫	
保健管理 センター 所長	永川祐三	
情報処理 センター長	細矢治夫	

入学者選抜方法研究委員会 (入学主幹室)

官職等	氏名	任期
文教育学部 選出委員	新井由紀夫	10. 4. 1~12. 3. 31
	坂本佳鶴恵	11. 4. 1~13. 3. 31
理学部 選出委員	藤原正彦	10. 4. 1~12. 3. 31
	林正男	11. 4. 1~13. 3. 31
生活科学部 選出委員	杉田孝夫	10. 4. 1~12. 3. 31
	仲西正	11. 4. 1~13. 3. 31
学生部長	福田豊	
カリキュラム 委員会 委員長	竹尾富貴子	

学芸員課程委員会 (文教育学部事務部)

官職等	氏 名	任 期
文教育学部 人間社会科学 教育科学座	耳塚 寛明	10.10. 1~12. 9.30
	鷹野 光行	
	三輪 建二	
文教育学部 選出委員	秋山 光文	
	小風 秀雅	
理学部 選出委員	内田 忠賢	
	市古 夏生	
生活科学部 選出委員	山下 貴司	
	吉村 佳子	

理学部附属臨海実験所運営委員会 (理学部事務部)

官職等	氏 名	任 期
理学部長	*平野 恒夫	10. 4. 1~12. 3.31
理学部附属 臨海実験所 長	根本 心一	
理学部 選出委員	富永 靖徳	
	松本 勲武	
理学部 附属臨海 実験所	山下 貴司	10. 4. 1~12. 3.31
文教育学部	清本 正人	
選出委員	水野 勲	10. 4. 1~12. 3.31
	内藤 博夫	11. 4. 1~13. 3.31
生活科学部 選出委員	本間 清一	10. 4. 1~12. 3.31
	富永 典子	
会計課長	白井 清二	
施設課長	鈴木 重之	

理学部放射化学実験室運営委員会 (理学部事務部)

官職等	氏 名	任 期
理学部長	*平野 恒夫	10. 4. 1~12. 3.31
放射化学 実験室長	松浦 悦子	
放射線 取扱主任者	古田 悦子	
文教育学部 選出委員	杉谷 隆	10.10. 1~12. 9.30
理学部 選出委員	浜谷 望	
	小川 温子	
生活科学部 選出委員	室伏 きみ子	9.10. 1~11. 9.30
	大塚 恵	
	富永 典子	

理学部極低温実験室運営委員会 (理学部事務部)

官職等	氏 名	任 期
理学部長	*平野 恒夫	11. 4. 1~13. 3.31
極低温実験 室 長	浜谷 望	
理学部 選出委員	富永 靖徳	10. 4. 1~12. 3.31
	永野 肇	
生活科学部 選出委員	芦原 坦	10. 4. 1~12. 3.31
	畑江 敬子	

情報処理センター運営委員会 (理学部事務部)

官職等	氏 名	任 期
情報処理 センター長	*細 矢 治 夫	
情報処理 センター 主 任	粕 川 正 充	
文教育学部 選出委員	宮 尾 正 樹 石 口 彰	10.10. 1~12. 9.30
理 学 部 選出委員	小 林 功 佳 森 義 仁	
生活科学部 選出委員	村 田 容 常 伊 藤 美奈子	
大学院人間 文化研究科 選出委員	内 藤 俊 史	10.10. 1~12. 9.30
ジェンダー 研究センター 選出委員	舘 かおる	
生活環境研 究センター 選出委員	富 永 典 子	
附 属 図 書 館 長	小 池 三 枝	
学 生 部 長	福 田 豊	
カリキュラ ム委員会 委 員 長	竹 尾 富 貴 子	

附属図書館運営委員会 (附属図書館事務部)

官職等	氏 名	任 期
附 属 図 書 館 長	*小 池 三 枝	
文教育学部 選出委員	大 塚 常 樹 天 野 知 香	10. 4. 1~12. 3.31 10.10. 1~12. 9.30
理 学 部 選出委員	横 川 光 司 應 野 景 子	10. 4. 1~12. 3.31
生活科学部 選出委員	徳 井 淑 子 長谷部 ヤエ	10.10. 1~12. 3.31 11. 4. 1~13. 3.31
大学院人間 文化研究科 選出委員	天 野 正 子 芦 原 坦	11. 6. 1~13. 5.31
ジェンダー 研究センター 選出委員	舘 かおる	10. 4. 1~12. 3.31
生活環境研 究センター 選出委員	富 永 典 子	10. 4. 1~12. 3.31
情報処理 センター長	細 矢 治 夫	
カリキュラ ム委員会 委 員 長	竹 尾 富 貴 子	

附属学校委員会 (附属学校部)

官職等	氏名	任期
附属 学校部長	*石川 宏	
文教育学部 選出委員	平野 由紀子	11. 4. 1 ~13. 3. 31
理学部 選出委員	室伏 きみ子	10. 4. 1 ~12. 3. 31
生活科学部 選出委員	無藤 隆	10.11.1 ~12. 3. 31
事務局長	橋本 幹夫	
附属 小学校長	高島 元洋	
附属 中学校長	田宮 兵衛	
附属 高等学校長	藤枝 修子	
附属 幼稚園長	片岡 康子	
附属 小学校教頭	星野 征男	
附属 中学校教頭	井上 泰次	
附属高等 学校教頭	早崎 捷治	
附属 幼稚園教頭	榎田 正子	

附属学校教育研究委員会 (附属学校部)

官職等	氏名	任期
附属 学校部長	*石川 宏	
文教育学部 選出委員	牛江 ゆき子	
理学部 選出委員	室伏 きみ子	10. 4. 1 ~12. 3. 31
生活科学部 選出委員	牧野 カツコ	
文教育学部 人間社会科学科 選出委員	酒井 朗	11. 4. 1 ~13. 3. 31
生活科学部 人間生活学科 選出委員	無藤 隆	10. 4. 1 ~12. 3. 31
附属 小学校長	高島 元洋	
附属 中学校長	田宮 兵衛	
附属 高等学校長	藤枝 修子	
附属 幼稚園長	片岡 康子	
附属 小学校教頭	星野 征男	
附属 中学校教頭	井上 泰次	
附属高等 学校教頭	早崎 捷治	
附属 幼稚園教頭	榎田 正子	
附属小学校 選出委員	猶原 和子	11. 4. 1~13. 3. 31
	田中 千尋	10. 4. 1~12. 3. 31
附属中学校 選出委員	加々美 勝久	11. 4. 1~13. 3. 31
	宮本 乙女	10. 4. 1~12. 3. 31
附属 高等学校 選出委員	小菅 和也	11. 4. 1~13. 3. 31
	石出 みどり	10. 4. 1~12. 3. 31
附属幼稚園 選出委員	吉岡 晶子	11. 4. 1~13. 3. 31
	上坂元 絵里	10. 4. 1~12. 3. 31

○学科主任

学 部	学 科 等	職 名	氏 名
文 教 育 学 部	人 文 科 学 科	教 授	秋 山 光 文
	言 語 文 化 学 科	〃	中 村 弓 子
	人 間 社 会 科 学 科	〃	耳 塚 寛 明
	芸 術 ・ 表 現 行 動 学 科	〃	林 廣 子
理 学 部	数 学 科	〃	前 田 ミチエ
	物 理 学 科	〃	森 川 雅 博
	化 学 科	〃	松 本 勲 武
	生 物 学 科	〃	石 和 貞 男
	情 報 科 学 科	〃	笠 原 勇 二
生 活 科 学 部	生 活 環 境 学 科	〃	本 間 清 一
	人 間 生 活 学 科	〃	榆 木 満 生

新任部局長紹介

学生部長・学長補佐

(任期 平成11年4月1日～平成13年3月31日)



氏名 ^{ふく} ^だ ^{ゆたか}
福田 豊
生年月日 昭和18年7月8日
専攻 化学、無機・錯体化学

〔略歴〕

昭和41年3月 和歌山大学学芸学部卒業
昭和43年3月 金沢大学大学院理学研究科化学専攻修士課程修了
昭和43年4月 静岡大学理学部助手
昭和45年4月 お茶の水女子大学理学部助手
昭和56年7月 同 講師
昭和60年2月 同 助教授
平成元年4月 同 教授
平成4年4月 岡崎国立共同研究機構分子科学研究所教授
平成6年4月 お茶の水女子大学理学部教授

〔モットー〕

知的好奇心を持ち、楽しくアクティブに。

〔趣味〕

囲碁（ヘボでザル）、土いじり（家庭菜園—最近、時間がなく、かつ遠方ということもあり、もっぱら植えておけば収穫できるという根菜類を栽培しています）。

〔就任の言葉〕

4月から学生部長と学長補佐を務めることになりましたが、私は主に学生関係、教育関係を担当することになっています。今まで、学会活動として色々仕事をしてきましたが、教育や学内行政のことは、これから勉強するところでまだ良くわかっていないところが多々あります。どうぞ宜しくお願いいたします。

学生部で本年から大きく変わったところは、学生センターがスタートし、教務関係が一元化されたことです。また、学生部ではありませんが研究事務（たとえば科研費）関係も研究協力室に一元化されています。これらの変更には不都合なところ（主に人手不足でしょう）も多々あるわけですが、スタートした限りより良いものにして行かねばなりません。私自身そのための努力は惜しまないつもりですが、これらの新しいシステムの円滑な運営を行うためには、今まで以上に教官—事務官の相互交流を良くしなければと思いますのでぜひ宜しくご協力お願いいたします。大学院（人間文化研究科）と学生部がどのような関係になればよいのか、これから解決しなければならない大きな宿題のように思います。

学長補佐

(任期 平成11年4月1日～平成13年2月16日)



氏名 おお ぐち ゆうじろう 大口 勇次郎
生年月日 昭和10年8月30日
専攻 日本近世史

〔略歴〕

昭和34年3月 東京大学文学部国史学科卒業
昭和36年3月 同 大学院人文科学研究科修士課程修了
昭和39年3月 同 博士課程中退
昭和39年4月 東京大学文学部助手
昭和41年4月 お茶の水女子大学文教育学部講師
昭和43年4月 同 助教授
昭和53年2月 同 教授
昭和63年1月 同 学生部長 ～ 平成元年12月
平成2年10月 同 文教育学部長 ～ 平成4年9月
平成6年11月 同 附属図書館長 ～ 平成10年10月
平成11年4月 同 大学院人間文化研究科教授

〔モットー〕

初心、忘れるべからず。

〔趣味〕

推理小説を読む。開架式の文庫をひらいています。

〔就任の言葉〕

学内措置によって設置された「学長補佐」は、評議会の申合せによりその職務を「1. 学長から指示された具体的な事項。2. 学長の職務について企画・調査等の補佐を行うこと」と定められており、このうち1. については、学長から「将来計画に関わる教育研究上の問題」について分担するようとの指示を受けています。いま学術審議会の答申とその法制化が進行し、これに対応する方策を全学で検討することが求められているなかで、多少でもお役に立てればと思っています。

と、まあこれは表向きの挨拶ですが、この仕事を引き受ける前から考えていたことに、ここ数年の学内改組のあと始末（たとえば大げさですが）として、例えば、学内の会議の効率的な削減プランとか、学内の通信連絡搬送システムの見直しとか、教官の研究室単位による編成の公認化とか、ホームページの整備と援助の計画など、一見些細だけれど気になる事柄があります。住みやすい大学にしたいと思っていますので、ご意見、お聞かせください。

人 事

○人事異動

発令年月日	氏 名	官 職 等	異動前の所属・職名
◇ 退 職			
11. 3. 31	薄高三	平成11年3月31日限り定年退職	生活科学部事務長
" "	葉橋浦	" "	附属高等学校作業員
" "	利良久政	辞 職 承 認	附属高等学校教諭
" "	加山田	" "	会計課課長補佐
" "	内田	" "	助教授 (生活科学部)
" "	高木	" "	助教授 (大学院人間文化研究科)
" "	大霜	" "	助 手 (文教育学部)
" "	青木	" "	" "
" "	松木	" "	助 手 (生活科学部)
" "	森下	" "	" "
" "	佐野	" "	助 手 (大学院人間文化研究科)
" "	久保	" "	" "
" "	高井	" "	附属小学校教諭
" "	芳澤	" "	附属中学校教諭
" "	清田	" "	" "
11. 4. 1	千歳	平成11年3月31日限り停年退職	教 授 (文教育学部)
" "	小高	" "	" "
" "	好川	" "	教 授 (理 学 部)
" "	小島	" "	" "
" "	伊藤	" "	教 授 (生活科学部)
" "	大橋	" "	教 授 (大学院人間文化研究科)
" "	藤橋	" "	" "
" "	伊藤	" "	教 授 (生活環境研究センター)
◇ 採 用			
11. 4. 1	西村	生活科学部事務長	
" "	石塚	教 授 (文教育学部)	
" "	戒能	教 授 (生活科学部)	
" "	三輪	助教授 (文教育学部)	
" "	川野	助教授 (理 学 部)	
" "	青木	助教授 (生活科学部)	
" "	池田	助 手 (文教育学部)	
" "	山本	助 手 (生活科学部)	
" "	片江	" "	
" "	洪賢	助 手 (大学院人間文化研究科) 任期 平成14年 3月31日まで	
" "	大池	" "	
" "	大橋	" "	
" "	関和	" "	
" "	竹島	" "	
" "	榎本	附 属 小 学 校 教 諭	
" "	加藤	附 属 中 学 校 教 諭	
" "	鹽ノ	" "	
" "	上沼	" "	
" "	渡邊	附 属 高 等 学 校 教 諭	
" "	海士	" "	
11. 4. 9	胡部	助 手 (大学院人間文化研究科) 任期 平成14年 4月 8日まで	

発令年月日	氏 名	官 職	等	異 動 前 の 所 属 ・ 職 名
◇ 昇 任				
10. 3. 16	河 本 充 司	助 授 授 (北海道大学大学院理学研究科)		助 手 (理 学 部)
11. 4. 1	峯 野 隆 子	会 計 課 課 長 補 佐		学 務 課 専 門 職 員
" "	河 野 照 浩	庶 務 課 職 員 係 長		生 活 科 学 部 総 務 係 学 務 主 任
" "	滝 本 田 浩	庶 務 課 附 属 学 校 係 長		庶 務 課 附 属 学 校 係 附 属 学 校 主 任
" "	神 下 井 葉	施 設 課 工 営 第 二 係 長		施 設 課 企 画 係 企 画 主 任
" "	松 溝 千 山	庶 務 課 職 員 係 職 員 主 任		庶 務 課
" "	本 平 中 榎	庶 務 課 附 属 学 校 係 附 属 学 校 主 任		理 学 部
" "	久 保 田 久 枝	会 計 課 司 計 係 司 計 主 任		会 計 課
" "	武 部 尚 徹	理 学 部 附 属 臨 海 実 験 所 技 術 専 門 職 員		理 学 部 附 属 臨 海 実 験 所 技 術 専 門 職 員
" "	武 次 西 藤	教 授 (文 教 育 学 部)		助 授 授 (文 教 育 学 部)
" "	加 藤 美 砂	"		"
" "	大 瀧 雅 寛	教 授 (理 学 部)		助 授 授 (北 海 道 大 学 大 学 院 理 学 研 究 科)
" "		"		助 授 授 (理 学 部)
" "		教 授 (生 活 科 学 部)		助 授 授 (生 活 科 学 部)
" "		助 授 授 (理 学 部)		助 手 (東 京 大 学 大 学 院 数 理 学 研 究 科)
" "		"		助 手 (東 京 大 学 大 学 院 工 学 系 研 究 科)
" "		助 授 授 (生 活 科 学 部)		助 手 (生 活 科 学 部)
" "		助 授 授 (大 学 院 人 間 文 化 研 究 科)		助 手 (理 学 部)
" "		"		講 師 (東 京 大 学 大 学 院 工 学 系 研 究 科)
◇ 配 置 換				
11. 4. 1	菊 池 昭 夫	文 教 育 学 部 事 務 長		理 学 部 事 務 長
" "	高 藤 近 上	理 学 部 事 務 長		文 教 育 学 部 事 務 長
" "	藤 城 本 島	会 計 課 専 門 職 員 (契 約 担 当)		学 生 課 学 生 係 長
" "	近 本 清 富	学 務 課 専 門 職 員 (教 務 担 当)		庶 務 課 庶 務 係 長
" "	山 本 山 本	入 学 主 幹 付 専 門 職 員 (入 学 課 担 当)		庶 務 課 企 画 法 規 係 長
" "	山 田 洋 行	庶 務 課 庶 務 係 長		庶 務 課 人 事 係 長
" "	高 田 沼 田	庶 務 課 企 画 法 規 係 長		会 計 課 用 度 係 長
" "	岡 西 菅 村	庶 務 課 人 事 係 長		庶 務 課 職 員 係 長
" "	菅 村 山 田	会 計 課 総 務 ・ 管 財 係 長		会 計 課 総 務 係 長
" "	岩 前 田 理 知	会 計 課 給 与 係 長		庶 務 課 附 属 学 校 係 長
" "	鈴 木 崎 藤	会 計 課 用 度 係 長		会 計 課 管 財 係 長
" "	村 濱 伊 高	施 設 課 企 画 係 長		会 計 課 給 与 係 長
" "	片 天 石 石	施 設 課 工 営 第 一 係 長		施 設 課 工 営 第 二 係 長
" "	渡 辺 野 口	学 生 課 専 門 職 員		施 設 課 企 画 係 長
" "	平 大 長	学 生 課 学 生 係 長		学 生 課 専 門 職 員
" "	畑 浜 新 竹	庶 務 課 附 属 学 校 係 総 務 主 任		理 学 部 総 務 係 学 務 主 任
" "	天 大 内 岡	会 計 課 総 務 ・ 管 財 係 総 務 主 任		会 計 課 総 務 係 総 務 主 任
" "		会 計 課 総 務 ・ 管 財 係 共 済 主 任		会 計 課 用 度 係 調 達 主 任
" "		学 務 課		生 活 科 学 部
" "		"		庶 務 課
" "		"		文 教 育 学 部
" "		教 授 (大 学 院 人 間 文 化 研 究 科)		"
" "		"		"
" "		"		教 授 (理 学 部)
" "		"		教 授 (文 教 育 学 部)
" "		"		"
" "		"		"
" "		"		教 授 (生 活 科 学 部)
" "		"		教 授 (理 学 部)
" "		助 授 授 (大 学 院 人 間 文 化 研 究 科)		助 授 授 (文 教 育 学 部)
" "		"		"
" "		"		"
" "		"		"
" "		"		"
" "		"		"

発令年月日	氏名	官職等	異動前の所属・職名
◇ 転任			
11. 4. 1	池野房子	庶務課	文部省生涯学習局学習情報課
"	酒巻純子	附属図書館	神戸大学附属図書館情報サービス課
"	庄司喜久夫	東京大学附属病院管理課工営班長	施設課工営第一係長
"	篠原千亜紀	神戸大学附属図書館情報管理課	附属図書館
"	箕浦康子	教授(文教育学部)	教授(東京大学大学院教育学研究科)
"	太田隆夫	教授(広島大学理学部)	教授(理学部)
◇ 併任			
11. 4. 1	太田隆夫	理学部教授	(広島大学理学部教授)
"	福田豊	併任期間 平成12年3月31日 学生部長	(理学部教授)
"	大口勇次郎	併任期間 平成13年3月31日 学長補佐	(大学院人間文化研究科教授)
"	石川宏	任 期 平成13年3月31日 学長補佐	(大学院人間文化研究科教授)
"	倉田忠男	併任期間 平成13年2月15日 附属学校部長・評議員	(大学院人間文化研究科教授)
"	永川祐三	併任期間 平成14年3月31日 生活環境研究センター長	(生活環境研究センター教授)
"	片岡康子	併任期間 平成13年3月31日 保健管理センター所長	(保健管理センター教授)
"	天野正子	併任期間 平成13年3月31日 附属幼稚園長	(文教育学部教授)
"	平野由紀子	併任期間 平成14年3月31日 評議員	(大学院人間文化研究科教授)
"	佐々木健	併任期間 平成13年3月31日 評議員	"
"	根本心一	併任期間 平成13年3月31日 文部省大臣官房文教施設部技術課	(施設課)
11. 4. 2	根本心一	併任期間 平成12年3月31日 理学部附属臨海実験所長	(理学部教授)
併任期間 平成13年4月1日			
◇ 復職			
11. 4. 1	新井仁美	職務復帰	(附属小学校教諭)
◇ 休職			
11. 4. 1	鈴木桂子	期間 平成12年3月31日	(附属高等学校教諭)
◇ 臨時的任用			
11. 4. 1	馬場由子	平成11年3月31日限り任期満了退職	(附属小学校教諭)

発令年月日	氏名	官 職 等	本務先の所属・職名
◇ 連 携			
11. 4. 1	鈴木明身	講師 (大学院人間文化研究科客員教授) 任期 平成12年3月31日	東京都臨床医学総合研究所生体膜研究部門部長
"	川喜田正夫	講師 (大学院人間文化研究科客員教授) 任期 平成12年3月31日	東京都臨床医学総合研究所医化学研究部門部長
"	梅田真郷	講師 (大学院人間文化研究科客員助教授) 任期 平成12年3月31日	東京都臨床医学総合研究所炎症研究部門室長
"	佐藤昭夫	講師 (大学院人間文化研究科客員教授) 任期 平成12年3月31日	東京都老人総合研究所名譽所員
"	神田健郎	講師 (大学院人間文化研究科客員教授) 任期 平成12年3月31日	東京都老人総合研究所中枢神経部門研究部長
"	鈴木敦子	講師 (大学院人間文化研究科客員助教授) 任期 平成12年3月31日	東京都老人総合研究所自律神経部門研究員
"	高橋重郷	文部教官 (大学院人間文化研究科教授) 併任期間 平成12年3月31日	厚生省国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部長
"	西岡八郎	文部教官 (大学院人間文化研究科教授) 併任期間 平成12年3月31日	厚生省国立社会保障・人口問題研究所人口構造研究部長
"	金子能宏	文部教官 (大学院人間文化研究科助教授) 併任期間 平成12年3月31日	厚生省国立社会保障・人口問題研究所社会保障応用分析研究部 第三室長
"	一色賢司	文部教官 (大学院人間文化研究科教授) 併任期間 平成12年3月31日	農林水産省食品総合研究所流通保全部 上席研究官
"	井手隆	文部教官 (大学院人間文化研究科教授) 併任期間 平成12年3月31日	農林水産省食品総合研究所食品機能部栄養化学研究室長
"	大坪研一	文部教官 (大学院人間文化研究科助教授) 併任期間 平成12年3月31日	農林水産省食品総合研究所素材利用部穀類特性研究室長

◎ 外国人教師

発令年月日	氏名	契約期間	異動区分
11. 4. 1	エドワード・J・シェファー	契約更新 11. 4. 1～12. 3. 31	契 約
"	オリファント・ヒュー・ファーガス	"	"
"	ロドルフ・シル・ディオ	"	"
"	何 平	新規 "	"

◎ 外国人研究員

発令年月日	氏名	契約期間	異動区分
11. 4. 1	トレス・アマリス・ティグラオ	契約更新 11. 4. 1～11. 6. 30	契 約

◎非常勤講師

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
◇ 採用				
11. 3. 1	能美健志	講師 (文教育学部)	11. 3. 31	パティ-大学 准教授
" "	畑佐一	" (理学部)	" "	東京理科大学 教授
" "	井上康	" "	" "	慶應義塾大学 助教授
11. 3. 15	中島陽克	" "	" "	東京都立大学 助教授
11. 4. 1	遠藤美	" (文教育学部)	12. 3. 31	聖心女子大学 教授
" "	近藤秀	" "	11. 9. 30	多摩美術大学 教授
" "	末吉雄	" "	" "	慶應義塾大学 教授
" "	川勝賢	" "	12. 3. 31	大正大学 教授
" "	尾美惠	" "	11. 9. 30	学習院女子大学 教授
" "	青木賢	" "	" "	明治大学 助教授
" "	廣松	" "	" "	東京都交通局
" "	吉岡	" "	12. 3. 31	成城大学 助教授
" "	石原	" "	" "	立教大学 教授
" "	加藤	" "	11. 9. 30	聖学院大学 教授
" "	塚本	" "	" "	和洋女子大学 教授
" "	石田	" "	12. 3. 31	" "
" "	根岸	" "	" "	" "
" "	棚橋	" "	" "	" "
" "	田沢	" "	" "	" "
" "	辻建	" "	" "	上智大学 助手
" "	鎌田	" "	" "	" "
" "	田上	" "	" "	" "
" "	内田	" "	" "	" "
" "	坂野	" "	11. 9. 30	日本女子大学 講師
" "	椎信	" "	12. 3. 31	文教大学 助教授
" "	山寄	" "	11. 9. 30	武蔵大学 助教授
" "	山田	" "	" "	明治学院大学 助教授
" "	福岡	" "	" "	高岡法科大学 助教授
" "	宮島	" "	" "	立教大学 教授
" "	小松	" "	" "	" "
" "	齐藤	" "	" "	学習院大学 教授
" "	福田	" "	" "	相模女子大学 助教授
" "	小田	" "	" "	成城大学 助教授
" "	村田	" "	" "	" "
" "	渡辺	" "	" "	" "
" "	厚木	" "	" "	" "
" "	笹本	" "	" "	日本女子体育大学 助教授
" "	末松	" "	" "	川村学園女子大学 教授
" "	沼澤	" "	" "	立教大学 助教授
" "	境居	" "	12. 3. 31	武蔵野短期大学 講師
" "	鳥林	" "	11. 9. 30	早稲田大学 助教授
" "	林上	" "	" "	" "
" "	三川	" "	" "	" "
" "	黒川	" "	12. 3. 31	" "
" "	薦田	" "	" "	" "
" "	芝田	" "	" "	" "
" "	宮内	" "	" "	" "
" "	細井	" (理学部)	11. 9. 30	東京理科大学 教授
" "	米田	" "	" "	" "
" "	曾下	" "	" "	" "
" "	中尾	" "	" "	明星大学 助手
" "	梅澤	" "	" "	法政大学 教授
" "	香代	" "	" "	" "

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
11. 4. 1	竹若可宍相西渡鴨末荒亀江黒澤	講師 (理学部)	11. 9. 30	理化学研究所主任研究員
"	松槻知倉川沢遼下松井井藤	"	"	東京都立大学助教授
"	明康直文英清	"	"	日本大学講師
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	東京女子医科大学主任教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	城西大学助教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	東京理科大学講師
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	川村学園女子大学教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	東京農業大学教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	(財)島根難病研究所研究部長
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	(生活科学部)	"	"
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	国際医療福祉大学助教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	日本大学教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	大妻女子大学教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	12. 3. 31	埼玉純真女子短期大学講師
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	11. 9. 30	文教大学女子短期大学教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	和洋女子大学教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	成蹊大学教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	日本大学講師
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	東京都教育庁学芸員
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	"
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	東京理科大学専任講師
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	東京家政学院大学教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	立教大学助教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	立教大学教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	東京経済大学教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	12. 3. 31	"
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	11. 9. 30	"
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	12. 3. 31	青山学院大学講師
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	(有)アパイル代表取締役
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	11. 9. 30	東京都立大学教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	東京家政学院大学助教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	"
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	(財)結核予防会研修部長
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	12. 3. 31	"
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	11. 9. 30	共立女子大学助教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	12. 3. 31	成蹊大学教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	11. 9. 30	慶應義塾大学教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	12. 3. 31	"
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	11. 9. 30	東京電機大学教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	学習院大学助手
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	日本大学講師
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	日本工業大学助教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	城西大学助教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	11. 11. 30	立教大学教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	12. 3. 31	東京女子大学教授
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	講師(研究機関研究員)	"	"
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	"
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	講師(附属小学校)	12. 3. 31	"
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"(附属中学校)	"	"
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	"
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"	"	"
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"(附属高等学校)	"	"
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	学校医(保健管理センター)	12. 2. 29	東京都老人医療センター精神科医長
11. 4. 5	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	講師(研究機関研究員)(生活環境研究センター)	12. 3. 31	"
11. 4. 12	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	講師(附属高等学校)	"	"
"	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	"(附属幼稚園)	"	"
11. 4. 26	子雄毅夫三子昇一行一勉生子	講師(研究機関研究員)(生活環境研究センター)	"	"

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
◇ 任用更新				
11. 4. 1	植村 恒一郎	講師 (文教育学部)	12. 3. 31	群馬県立女子大学教授
"	五條 しおり	"	"	埼玉県立大学助教授
"	佐藤 普美子	"	"	駒澤大学助教授
"	王 聡	"	"	
"	孫 英玉	"	"	
"	龍 華礼	"	"	
"	ジェームス・ウィルコックス	"	"	
"	千 葉 修 司	"	"	津田塾大学教授
"	岩倉 嘉代子	"	"	
"	大 岩 順 子	"	"	
"	篠塚 久美子	"	"	明海大学教授
"	俵 田 春 江 子	"	"	
"	沼野 恭 真 弓	"	"	
"	吉岡 真 田	"	"	
"	ライヤ・奥	"	"	
"	伊藤 みどり	"	"	
"	シークリット・酒井	"	"	
"	中島 万紀子	"	"	
"	平 尾 浩 三 美	"	"	慶應義塾大学教授
"	松 尾 直 幸	"	"	武蔵野音楽大学助教授
"	光 野 正 杉 夫	"	"	武蔵大学教授
"	山 田 杉 夫	"	"	
"	尾形 こづえ	"	"	青山学院大学教授
"	伊藤 幸 次	"	"	獨協大学教授
"	岩切 正一郎	"	"	国際基督教大学助教授
"	金子 美都子	"	"	聖心女子大学教授
"	ハルカ・ヌー・コエン	"	"	
"	中 條 忍 男	"	"	青山学院大学教授
"	金 谷 貞 祐	"	"	東京都立大学教授
"	中 伊 藤 誠 子	"	"	武蔵大学講師
"	伊 矢 口 悦 子	"	"	国学院大学教授
"	佐 藤 聡 子	"	"	
"	中 川 禮 子	"	"	日本赤十字武蔵野短期大学教授
"	山 道 陵 子	"	"	
"	相 田 由 美 子	"	"	
"	新 垣 王 敏 子	"	"	白百合女子大学教授
"	井 上 百 合 子	"	"	
"	岡 部 玲 子	"	"	
"	小 池 松 寿 人	"	"	武蔵野音楽大学助教授
"	曾 我 淑 子	"	"	十文字学園女子短期大学教授
"	高 久 淑 子	"	"	
"	八 田 清 隆 子	"	"	
"	林 田 清 子	"	"	
"	平 尾 力 哉 忠	"	"	
"	山 内 静 香	"	"	宮城学院女子大学教授
"	橋 能 美 志 正	"	11. 9. 30	
"	池 向 井 万 里 子	(理 学 部)	12. 3. 31	
"	戸 瀬 下 信 之 幸	"	"	慶應義塾大学教授
"	大 井 本 裕 修 子	"	"	
"	西 本 西 白 静 恵 晋	"	11. 9. 30	
"		"	12. 3. 31	(財)高度情報科学技術研究機構特別研究員

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
11. 4. 1	竹沢 照子	講師 (理学部)	12. 3. 31	日本大学教授
"	川端 博子	" (生活科学部)	11. 9. 30	東京都立短期大学講師
"	田中 俊彦	"	"	東京電力空調システム部長
"	岡田 陽子	"	12. 3. 31	山脇学園短期大学助教授
"	利光 功	"	"	東京工芸大学教授
"	成田 汀二	"	"	"
"	豊田 和	"	"	"
"	野口 ひろみ	"	"	山脇学園短期大学助教授
"	富山 太佳夫	" (大学院人間文化研究科)	"	成城大学教授
"	西原 鈴子	"	11. 9. 30	東京女子大学教授
"	上野 田鶴子	"	12. 3. 31	"
"	小林 富久子	" (ジェンダー研究センター)	"	早稲田大学教授
"	外山 紀子	講師 (研究機関研究員)	"	"
"	清瀬 千佳子	" (生活環境研究センター)	"	"
"	宮田 恭子	"	"	"
"	近藤 美智江	講師 (附属小学校)	"	"
"	増田 伸江	"	"	"
"	嶋口 章子	" (附属中学校)	"	"
"	佐藤 ゆきの	"	"	"
"	竹村 朝子	"	"	"
"	和田 早苗	"	"	"
"	稲毛 美幸	"	"	"
"	津田 ひろみ	"	"	"
"	スティーブン・マナル・パー	"	"	"
"	田中 邦博	" (附属高等学校)	"	"
"	佐藤 久美子	"	"	"
"	吉本 智子	"	"	"
"	鈴木 京子	"	"	"
"	長谷川 みゆき	"	"	"
"	鬼木 雅子	"	"	"
"	川口 美智子	"	"	"
"	スティーブン・マナル・パー	"	"	"
"	ヘレン・ジュリア・ライ	"	"	"
"	ウズ	"	"	"
"	清宮 聡子	" (附属幼稚園)	"	"
"	古市 郁子	学校医 (保健管理センター)	"	虎の門病院医員
"	日暮 和宏	" (附属高等学校)	"	東京家政大学教授
"	渡辺 和久	学校歯科医	"	"
"	高田 則久	学校薬剤師	"	"
◇ 併任				
11. 3. 1	小田 豊	講師 (生活科学部)	11. 3. 31	文部省初等中等教育局視学官
"	室伏 擴	" (理学部)	"	東京大学助教授
11. 4. 1	武笠 行理	" (文教育学部)	12. 3. 31	電気通信大学助教授
"	横田 博	"	"	"
"	大友 一雄	"	11. 9. 30	国文学研究資料館助教授
"	黒木 英充	"	"	東京外国語大学助教授
"	佐々木 孝弘	"	12. 3. 31	"
"	林 陽生	"	11. 9. 30	農業環境技術研究所環境資源部気象管理科気候資源研究室長
"	鳥海 光弘	"	"	東京大学教授
"	金田 光章	"	12. 3. 31	千葉大学助教授
"	楊 凱	"	"	東京大学助教授
"	吉川 雅之	"	"	東京大学講師
"	今西 典子	"	"	東京大学教授
"	高橋 和一	"	"	"
"	渡辺 一	"	"	東京大学助手

発令年月日	氏名	官 職 等	任 期	備 考
11. 4. 1	遠藤龍二	講師 (文教育学部)	12. 3. 31	図書館情報大学教授
"	西村靖	"	"	千葉大学教授
"	平石直昭	"	"	東京大学教授
"	滝沢昌彦	"	11. 9. 30	一橋大学助教授
"	志水宏吉	"	"	東京大学助教授
"	塚原修	"	"	国立教育研究所教育制度研究室長
"	寺崎弘一	"	"	東京大学助教授
"	藤井佐知子	"	"	宇都宮大学助教授
"	児美川佳代子	"	"	東京大学助手
"	森重雄	"	"	電気通信大学助教授
"	薬師神玲子	"	"	名古屋大学助手
"	渡部洋利	"	12. 3. 31	東京大学教授
"	細江文利	"	11. 9. 30	東京学芸大学教授
"	加藤富美子	"	12. 3. 31	東京学芸大学助教授
"	根本和子	"	"	千葉大学助教授
"	高木亮久	(理学部)	"	千葉大学教授
"	品川石久	"	11. 9. 30	東京大学講師
"	大黒谷明美	"	12. 3. 31	国立天文台助教授
"	大浦武信	"	11. 9. 30	宇宙科学研究所助教授
"	古川敬之	"	12. 3. 31	筑波技術短期大学助教授
"	北本勝一	(生活科学部)	11. 9. 30	東京大学助教授
"	上野川修一	"	"	東京大学教授
"	豊田正武	"	"	国立医薬品食品衛生研究所食品部長
"	金子佳代子	"	"	横浜国立大学教授
"	河内真紀子	"	"	通商産業省工業技術院生命工学工業技術研究所主任研究官
"	岡田守彦	"	"	筑波大学教授
"	大塚雄作	"	12. 3. 31	メディア教育開発センター教授
"	菅原ますみ	"	11. 9. 30	国立精神・神経センター精神保健研究所家族・地域研究室長
"	西村清和	"	12. 3. 31	埼玉大学教授
"	柴田美栄	"	11. 9. 30	千葉大学助教授
"	楊今西	(大学院人間文化研究科)	12. 3. 31	東京大学助教授
"	鮎澤典孝	"	"	東京大学教授
"	長谷川敏也	"	11. 9. 30	東京外国語大学教授
"	立岩真和	"	12. 3. 31	茨城大学教授
"	永井井口	"	11. 9. 30	信州大学医療技術短期大学部助教授
"	溝上村治	"	"	東京工業大学教授
"	西原寛博	"	"	国立科学博物館人類第二研究室長
"	長谷川裕巳	"	"	東京大学助教授
"	岡本桂一郎	"	"	東京大学教授
"	小川幸一	"	"	"
"	大三澤真	(ジェンダー研究センター)	"	東京工業大学助教授
"			11. 10. 31	東京大学教授
◇ 兼 担				
11. 4. 1	天野知香	講師 (文教育学部)	12. 3. 31	助教授 (大学院人間文化研究科)
"	新井由紀夫	"	"	"
"	大口勇次郎	"	"	教授
"	内田忠賢	"	"	助教授
"	大塚常樹	"	"	"
"	平野由紀子	"	"	教授
"	竹村和子	"	"	助教授
"	石川宏	"	"	教授
"	岡崎	"	"	助教授

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
11. 4. 1	長友和彦	講師 (文教育学部)	12. 3. 31	教授 (大学院人間文化研究科)
"	天野正節	"	"	"
"	石黒子武	"	11. 9. 30	助教授
"	駒込原修	"	12. 3. 31	教授
"	宮内伸子	"	"	"
"	春春日香	"	"	"
"	坂日元	"	"	助教授
"	館かおる	"	11. 9. 30	教授 (ジェンダー研究センター)
"	渡辺ヒサ子	(理学部)	12. 3. 31	(大学院人間文化研究科)
"	浜谷望	"	"	"
"	富永靖徳	"	"	"
"	出口哲生	"	"	助教授
"	今野美智子	"	"	"
"	堀佳也子	"	"	"
"	佐藤浩史	"	"	教授
"	河村哲也	"	"	"
"	馬場昭次	"	"	"
"	小川温子	"	"	助教授
"	加藤美砂子	"	"	"
"	倉田忠典	"	"	教授 (生活環境研究センター)
"	富永典子	"	"	助教授
"	五十嵐脩	(生活科学部)	"	教授
"	倉田忠典	"	"	"
"	富永典子	"	"	助教授
"	原ひろ子	"	11. 9. 30	教授 (ジェンダー研究センター)
"	館かおる	"	"	"
"	川嶋瑤子	"	"	"
"	小川昭二郎	"	12. 3. 31	(大学院人間文化研究科)
"	畑江敬子	"	"	"
"	大瀧雅寛	"	"	助教授
"	村田容常	"	"	"
"	牧野力ツコ	"	"	教授
"	伊藤美奈子	"	"	助教授
"	田代和美子	"	"	"
"	御船美智子	"	"	"
"	菊池美千世	(文教育学部)	11. 9. 30	附属高等学校教諭
"	木村真冬	"	"	附属中学校教諭
"	高橋通泰	"	"	附属高等学校教諭
"	水岡万紀子	"	"	"
"	花田修一	"	12. 3. 31	附属中学校教諭
"	小菅和也	"	"	附属高等学校教諭
"	中津川義浩	"	"	"
"	遠藤修一郎	"	"	附属小学校教諭
"	若林富男	"	11. 9. 30	"
"	和田祐三	"	"	"
"	永川山三	"	12. 3. 31	教授 (保健センター)
"	古宮乙女	"	11. 9. 30	附属高等学校教諭
"	小宮幸夫	"	"	附属中学校教諭
"	小村井利枝	(理学部)	12. 3. 31	"
"	園部幸彦	"	"	附属高等学校教諭
"	室岡幸子	"	11. 9. 30	附属高等学校教諭
"	茶山義光	"	"	"
"	沖山美勝	"	"	"
"	加々美祐三	"	"	附属中学校教諭
"	永川祐三	(生活科学部)	12. 3. 31	教授 (保健センター)
"	"	"	"	"
"	田中三保子	"	11. 9. 30	附属幼稚園教諭
"	石田勉	"	12. 3. 31	附属中学校教諭

◎非常勤職員

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
◇採用				
11. 4. 1	沼田理子	事務補佐員 (庶務課)	12. 3. 30	
"	伊藤恵子	" (会計課)	"	
"	倉澤利嘉子	"	"	
"	丸山奈月	"	"	
"	内平瑞江	" (学務課)	"	
"	萩原純子	" (学生課)	12. 3. 31	
"	山崎真希子	"	"	
"	土屋玲美子	"	"	
"	坂本真希子	臨時用務員	"	
"	鈴木真希子	事務補佐員 (入学主幹付)	"	
"	飯島ますみ	" (附属図書館)	12. 3. 30	
"	安保如子	"	12. 2. 29	
"	加藤志保美	"	"	
"	平田裕貴	"	"	
"	柳町本恵子	"	"	
"	鍋島恵子	"	"	
"	生田かおり	"	"	
"	村瀬利夫	"	"	
"	高三橋礼子	臨時用務員 (附属高等学校)	12. 3. 31	
"	乃瀬美津江	事務補佐員 (附属幼稚園)	"	
"	川由紀子	臨時用務員	"	
"	吉谷直子	教務補佐員 (文教育学部)	"	
"	藤本恵子	"	"	
"	藤富士子	"	"	
"	内海暁子	"	"	
"	田村恵理子	事務補佐員	"	
"	社本恵美子	"	"	
"	中村浩子	"	"	
"	森島麻衣子	"	"	
"	石崎晶子	教務補佐員	"	
"	白石知佳子	"	"	
"	堀和佳子	"	"	
"	柳瀬サ工子	"	"	
"	諸田裕子	"	"	
"	富士原紀枝	"	"	
"	大道真佐美	"	"	
"	池田まさみ	"	"	
"	利根川智子	"	11. 5. 31	
"	本徳亜希子	"	11. 9. 30	
"	山村麻里子	"	12. 3. 31	
"	村井久江子	事務補佐員 (理学部)	12. 3. 30	
"	菊地朋江子	臨時用務員 (理学部附属海実験所)	"	
"	岡中尾朗子	教務補佐員 (理学部)	12. 3. 31	
"	中西佐保子	"	"	
"	西条優子	"	11. 9. 30	
"	東山江美子	"	"	
"	黒川知子	"	12. 3. 31	
"	神原優子	" (生活科学部)	"	
"	水原慶子	"	11. 9. 30	
"	米田千恵子	"	12. 3. 31	

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
11. 4. 1	中野玲子	教務補佐員 (生活科学部)	12. 3. 31	
"	紺野千秋	" "	"	
"	矢野由佳	" "	"	
"	佐久間路子	" "	"	
"	松田清美	" "	"	
"	中川英子	" "	"	
"	篠原乙記	" "	11. 9. 30	
"	渡瀬典子	" "	12. 3. 31	
"	和野早苗	" "	"	
"	葭内あり	" "	11. 9. 30	
"	海野めぐむ	事務補佐員 (大学院人間文化研究科)	12. 3. 31	
"	谷口幸代	教務補佐員 "	"	
"	横山知子	技術補佐員(研究支援推進員)(生活環境研究センター)	"	
"	根村直美	" (ジェンダー研究センター)	"	
11. 4. 16	植竹由美	教務補佐員 (理 学 部)	11. 8. 31	

◇ 任用更新

11. 4. 1	大橋悦子	事務補佐員 (会 計 課)	12. 3. 31	
"	島田ゆう	" "	"	
"	岩坂和美	技能補佐員 "	"	
"	山本和里	臨時用務員 "	"	(志賀高原体育運動場)
"	江本洋子	" "	"	(館山野外教育施設)
"	田中由紀	事務補佐員 (施 設 課)	"	
"	印藤朝子	" (学 務 課)	"	
"	中村智子	" "	"	
"	太田智子	" (学 生 課)	11. 5. 31	
"	飯田絢子	" "	"	
"	平岡真季	" "	"	
"	山中洋子	臨時用務員 "	12. 3. 31	
"	長島明嘉	事務補佐員 (附属図書館)	"	
"	田沼重実	" "	"	
"	田岸里絵	" "	"	
"	田神晶子	" "	"	
"	近田久仁	" "	"	
"	山本しのぶ	" "	"	
"	小倉三枝	" (附属高等学校)	"	
"	土屋智子	" (附属中学校)	"	
"	鈴木敏昭	臨時用務員 "	"	
"	前田良子	" (附属小学校)	"	
"	宮崎朋子	" "	"	
"	堀田弘香	" "	"	
"	長野美代	教務補佐員 (文教育学部)	"	
"	大野雅子	" "	"	
"	中富節子	事務補佐員 "	"	
"	倉持幸恵	" "	"	
"	中桐典子	教務補佐員 "	"	
"	瀬戸川順子	" "	"	
"	橋田葉子	事務補佐員 "	"	
"	長田美和	教務補佐員 "	"	
"	志渡岡理恵	" "	"	
"	尾崎美佳	事務補佐員 "	"	
"	飯塚和子	教務補佐員 "	"	
"	上田智子	" "	"	
"	池亀直子	事務補佐員 "	"	
"	畦山恵理子	教務補佐員 "	"	
"	近藤朋子	" "	"	

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
11. 4. 1	野口 暁子	教務補佐員 (文教育学部)	12. 3. 31	
"	馬場 慶千	"	"	
"	杉崎 千繪	"	"	
"	吉本 春子	"	"	
"	梅林 郁子	"	"	
"	田崎 直美	"	"	
"	古瀬 安子	"	"	
"	塚本 由香	"	"	
"	井上 登喜	"	"	
"	西川 紀子	事務補佐員	"	
"	濱奥 美代	"	"	
"	小林 ミチ	臨時用務員	"	
"	小田 和悦	事務補佐員 (理学部)	"	
"	千川 圭子	"	"	
"	森重 久美	教務補佐員	"	
"	中村 洋子	"	"	
"	馬淵 依子	"	"	
"	濱野 光代	事務補佐員	"	
"	井上 喜代	"	"	
"	丹羽 裕子	教務補佐員	"	
"	雨宮 敏子	" (生活科学部)	11. 4. 30	
"	嶋田 淑子	"	12. 3. 31	
"	飯島 久美	"	"	
"	黒澤 和子	"	"	
"	佐藤 秀美	"	"	
"	大島 美真	"	"	
"	三難 波子	"	"	
"	平野 順子	"	"	
"	室本 由香	"	"	
"	根藤 亜紀	"	"	
"	伊木 真紀	事務補佐員	11. 9. 30	
"	菅野 祥子	" (大学院人間文化研究科)	11. 12. 31	
"	井上 喜代	"	12. 3. 31	
"	藤 優子	教務補佐員 (生活環境研究センター)	"	
"	金野 和子	技術補佐員(研究支援推進員)	"	
"	荻野 正恵	教務補佐員 (ジェンダー研究センター)	"	
"	造力 由美	"	"	
"	竹内 ゆり	"	"	
"	安藤 玲子	"	"	
"	村上 みど	技術補佐員(研究支援推進員)	"	
"	小山 直子	"	"	
◇ 退職				
11. 3. 30	鈴木 恵子	事務補佐員 (会計課)		
"	伊藤 季子	"		
"	川村 倫世	" (学務課)		
"	平田 陽子	" (学生課)		
"	坂上 喜美	" (附属図書館)		
"	村井 麻里	" (理学部)		
"	菊地 久江	臨時用務員 (理学部附属海実験所)		
11. 4. 25	桑田 優子	教務補佐員 (理学部)		
11. 4. 30	海野 めぐ	事務補佐員 (大学院人間文化研究科)		
"	橋田 葉子	" (文教育学部)		

学 事

平成12年度お茶の水女子大学理学部第3年次編入学（社会人特別選抜を含む） 学生募集要項

お茶の水女子大学理学部では、平成8年度から第3年次編入学試験を実施しています。

本学部では、社会における女性の地位向上と相まって要請されている、高度な学識と広い視野を持つ女子学生の育成を目指してきました。高等教育の多様化の一環として、既に社会人として活躍しておられる方々のリカレント教育や、短期大学・高等専門学校を卒業して更に深い専門知識を求めようとする方に、より高度な理学部専門教育の機会を提供することが、この制度の趣旨であります。

これが、自然科学の修学を目指す女性の方々の更なる高みへの飛翔の出発点となることを期待いたします。

Ⅰ 一般選抜

1. 募集人員

学 科	募集人員
数 学 科	社会人特別募集 とあわせて 10名
物 理 学 科	
化 学 科	
生 物 学 科	
情 報 科 学 科	

2. 出願資格

次のいずれかに該当する女子とする。

学 科	出 願 資 格
数 学 科 物 理 学 科 化 学 科 生 物 学 科	(1)大学を卒業した者及び平成12年3月卒業見込みの者 (2)短期大学を卒業した者及び平成12年3月卒業見込みの者 (3)高等専門学校を卒業した者及び平成12年3月卒業見込みの者 (4)外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者及び 修了見込みの者 (5)平成12年3月までに大学に2年以上在学し、62単位以上修得見込の者
情 報 科 学 科	(1)大学を卒業した者及び平成12年3月卒業見込みの者 (2)短期大学を卒業した者及び平成12年3月卒業見込みの者 (3)高等専門学校を卒業した者及び平成12年3月卒業見込みの者 (4)外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者及び 修了見込みの者

3. 出願期間

平成11年6月7日（月）から平成11年6月11日（金）まで。

（6月11日消印有効）

4. 出願手続

(1) 提出書類等

編入学願書	本学所定の用紙
志望理由書	本学所定の用紙
卒業（見込）証明書又は在学証明書	
成績証明書（履修中の科目も記載すること。）	
健康診断書	本学所定の用紙
検 定 料	30,000 円（郵便局振出しの「普通為替証書」）
返信用封筒	あて先を明記して、350円切手（速達料を含む。）を貼った定形郵便物用封筒を同封すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括して、必ず書留で本学入学主幹室入学試験係あてに郵送すること。

なお、『理学部第3年次編入学願書』と朱書すること。

お茶の水女子大学入学主幹室入学試験係

〒 112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

☎ 03 (5978) 5151~2

5. 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査（筆記試験・口述試験）及び成績証明書等を総合して判定する。

学科名	6月30日（水）	
	試験科目	時 間
数 学 科	数 学*	10:00~12:00
	英 語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~
物 理 学 科	数 学	9:00~10:30
	物 理 学	10:40~12:10
	口述試験	13:30~
化 学 科	化 学	10:00~12:00
	英 語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~
生 物 学 科	生 物 学	10:00~12:00
	英 語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~
情 報 科 学 科	数 学	9:00~10:30
	情 報**	10:40~12:10
	英 語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~

* 微分・積分，行列と行列式

** 第二種情報処理技術者試験程度

II 社会人特別選抜

1. 募集人員

学 科	募集人員
数 学 科	一般編入学募集 とあわせて 10名
物 理 学 科	
化 学 科	
生 物 学 科	
情 報 科 学 科	

2. 出願資格

入学時に社会人としての経験を1年以上有し、次のいずれかに該当する女子とする。

学 科	出 願 資 格
数 学 科	(1)大学を卒業した者
物 理 学 科	(2)短期大学を卒業した者
化 学 科	(3)高等専門学校を卒業した者
生 物 学 科	(4)外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者
情 報 科 学 科	

なお、入学時において現職のまま入学しようとする者は、入学手続の際に企業等の所属長の入学承諾書（様式随意）を提出すること。

3. 出願期間

平成11年6月7日（月）から平成11年6月11日（金）まで。

（6月11日消印有効）

4. 出願手続

(1) 提出書類等

編入学願書	本学所定の用紙
志望理由書	本学所定の用紙
卒業証明書	
成績証明書	
健康診断書	本学所定の用紙
検 定 料	30,000 円（郵便局振出しの「普通為替証書」）
返信用封筒	あて先を明記して、350円切手（速達料を含む。）を貼った定形郵便物用封筒を同封すること。

(2) 出願方法

出願書類を一括して、必ず書留で本学入学主幹室入学試験係あてに郵送すること。

なお、『理学部第3年次(社会人特別選抜)編入学願書』と朱書すること。

お茶の水女子大学入学主幹室入学試験係

〒 112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

☎ 03 (5978) 5151~2

5. 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査(筆記試験・口述試験)及び成績証明書等を総合して判定する。

なお、詳細については、入学主幹室へ問い合わせること。

学科名	6月30日(水)	
	試験科目	時 間
数 学 科	数 学*	10:00~12:00
	英 語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~
物 理 学 科	数 学	9:00~10:30
	物 理 学	10:40~12:10
	口述試験	13:30~
化 学 科	化 学	10:00~12:00
	英 語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~
生 物 学 科	生 物 学	10:00~12:00
	英 語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~
情 報 科 学 科	数 学	9:00~10:30
	情 報**	10:40~12:10
	英 語	13:00~14:00
	口述試験	15:00~

* 微分・積分, 行列と行列式

** 第二種情報処理技術者試験程度

III 合格発表等

1. 合格者の発表

- (1) 7月8日(木)正午の予定。学内本部棟前掲示板に掲示する。
合格者には、合格通知書を郵送する。
- (2) 入学手続関係書類は、平成11年11月中旬に送付する。入学手続きは12月下旬に行う。

2. 入学料及び授業料

- (1) 入学料 277,000円
- (2) 授業料年額 469,200円

3. 修学条件

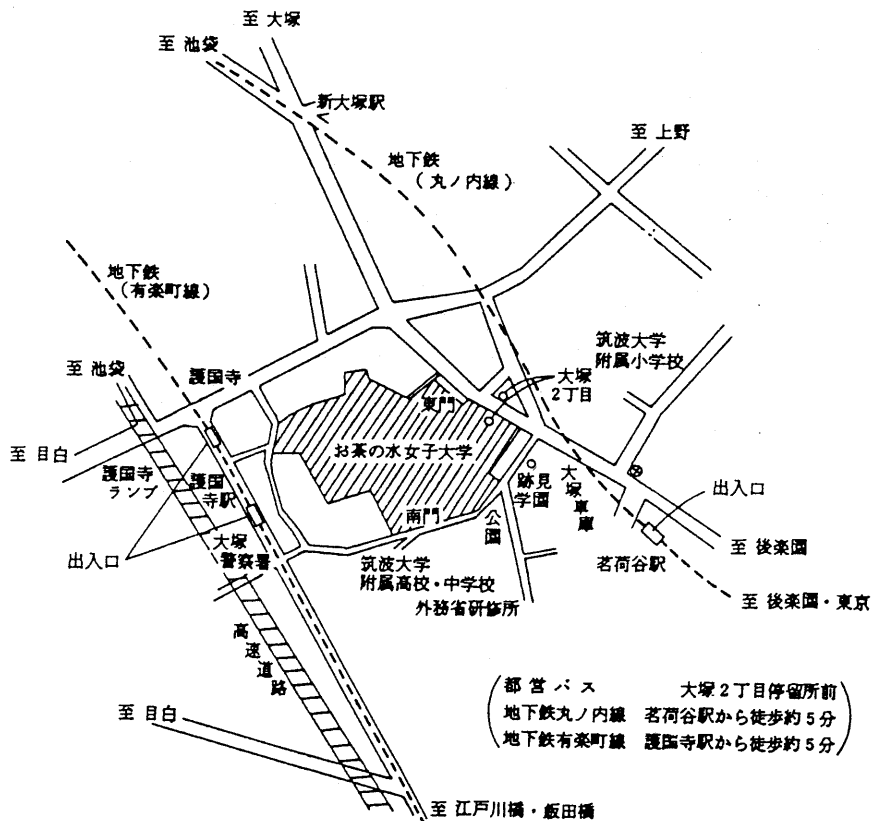
入学の時期は平成12年4月とし、編入学後2年以上4年以内に本学理学部履修規程に定める授業科目を履修し、卒業に必要な単位を修得した者については、学士(理学)の学位を授与する。

4. その他

- (1) 出願後、書類の変更及び検定料の払戻は行わない。
- (2) 出願書類等の請求は、あて先を明記し、160円切手を貼った角形2号封筒(23.9cm×33.1cm)を同封すること。

5. 大学所在地案内

都営バス 大塚2丁目停留所前
地下鉄 丸ノ内線 茗荷谷駅 徒歩約5分
" 有楽町線 護国寺駅(音羽口) 徒歩約5分



お茶の水女子大学理学部履修概要

1. 履修方法及び課程の修了

- (1) 卒業するためには、本学理学部履修規程に定めるところにより、124単位以上を修得しなければならない。
- (2) 本学部に編入学前に在学した大学等において修得した単位については、本学部の定める基準に従って卒業要件単位として認定する。
- (3) 卒業に必要な単位を修得した者については、学士（理学）の学位を授与する。

2. 各学科の授業科目

学 科	専 攻 科 目 (必 修)
数 学 科	初等代数学, 線形代数, 同演習, 微分積分学, 同演習, 微分積分学統論, 同演習, 線形代数統論, 幾何学序論, 同演習, 位相空間論, 同演習, 離散数学, 同演習, 関数論, 同演習, 現代数学講話, 数学講究
物 理 学 科	古典力学, 解析力学, 力学系理論, 電磁気学Ⅰ・Ⅱ, 物理数学Ⅰ・Ⅱ, 数理物理学, 量子力学Ⅰ・Ⅱ, 多体系量子力学, 熱・統計力学, 量子統計力学, 固体電子論, 相転移物理学, 凝縮系物理学, 原子核物理学, 素粒子物理学, 基礎物理学実験, 物理学実験, 特別研究
化 学 科	基礎物理化学, 定量分析化学・化学平衡論, 構造有機化学, 基礎無機化学, 構造生化学, 構造物理化学, 物性物理化学, 機器測定法, 反応有機化学, 構造無機化学, 生体分子反応学, 分子分光学, 基本化学実験, 無機化学実験, 分析化学実験, 有機化学実験, 物理化学実験, 生物化学実験, 化学演習, 特別研究
生 物 学 科	基礎生物学A・B, 生化学, 生物物理学, 動物系統学, 植物形態学, 植物生理学Ⅰ, 基礎遺伝学, 分子細胞生物学, 細胞生物学Ⅰ, 動物生理学, 発生生物学Ⅰ, 生物学実習Ⅰ・Ⅱ
情 報 科 学 科	線形代数, 微分積分学, 数理基礎論, 計算機システム序論, データ構造とアルゴリズム, 確率序論, 関数論, 離散数学, プログラム作成実習, 自然情報基礎論Ⅰ・Ⅱ, 数値計算, 情報理論, 計算基礎論, オペレーティングシステム, 言語理論とオートマトン, 特別研究

※ 上記授業科目以外に、専攻科目（選択）、関連科目が多数開講されている。

○学位授与

(課程修了によるもの)

学位授与日：平成11年3月23日

授与番号	博士の専攻分野の名称	氏名	本籍	博士論文名
甲第110号	博士(人文科学)	河村昌子	岐阜県	民国時期巴金研究
甲第111号	博士(人文科学)	劉卿美	大韓民国	平安貴族社会における専門歌人の研究 - 屏風歌を中心にして -
甲第112号	博士(人文科学)	山口杉子	東京都	アダム・スミスの倫理思想 - イギリス道徳感覚学派における位置 -
甲第113号	博士(人文科学)	谷口幸代	福井県	現代文学と美術の交流に関する実証的研究 - 川端康成を中心に -
甲第114号	博士(人文科学)	福岡昌子	東京都	中国人学習者の日本語音声の習得及びその指導に関する研究 - 破裂音とイントネーションを中心として -
甲第115号	博士(人文科学)	胡潔	中国	平安貴族の婚姻慣習と『源氏物語』
甲第116号	博士(人文科学)	新居田純野	神奈川県	「ある／いる」構文の研究
甲第117号	博士(人文科学)	施淑恵	台湾	源氏物語における〈を格〉の名詞をかざりとする動詞連語の研究
甲第118号	博士(人文科学)	園田菜摘	東京都	幼児期の内的状態への言及の特徴 - 親子間の相互作用の検討 -
甲第119号	博士(人文科学)	渋谷真樹	宮城県	「帰国子女」の位置取りの政治 - 帰国子女教育学級における差異のエスノグラフィ -
甲第120号	博士(学術)	佐藤真理子	神奈川県	発汗の動的特性 - 局所発汗量測定装置の開発と発汗ゆらぎの周波数解析 -

甲第 121号	博士(理 学)	植 竹 由 美	埼 玉 県	卵減数分裂にかかわる中心体の複製能
甲第 122号	博士(理 学)	門 吉 朋 子	高 知 県	Quantum cosmology in dilatongravity
甲第 123号	博士(理 学)	沓 掛 磨也子	長 野 県	キイロショウジョウバエの嗅覚行動に異常を示す系統の分子遺伝学的研究
甲第 124号	博士(理 学)	桑 田 優 子	京 都 府	振動を考慮した化学反応ダイナミックス
甲第 125号	博士(学 術)	関 和 陽 子	千 葉 県	ショウガ香辛性配糖体の検索とその機能
甲第 126号	博士(理 学)	竹 島 由里子	東 京 都	適応的ボリュームビジュアルゼーションのための統合環境
甲第 127号	博士(理 学)	平 野 玲 子	石 川 県	低比重リポタンパク質の抗酸化能に及ぼす食事因子および遺伝素因の影響
甲第 128号	博士(理 学)	三 宅 桃 子	千 葉 県	織毛打の周期および波形におけるゆらぎと粘性負荷に応じた修飾についての数値解析的研究
甲第 129号	博士(理 学)	李 周 洋	大韓民国	ピロネクチン抗体で認識される新規核蛋白質の遺伝子のクローニングと機能に関する研究
甲第 130号	博士(学 術)	任 惠 英	大韓民国	Wood Garlic (Scorodocarpus borneensis Becc) 中の含硫生理活性化合物の同定およびその作用機構
甲第 131号	博士(学 術)	郭 恩 廷	大韓民国	モデルメラノイジンの調製条件と化学的特性に関する研究

甲第 132号	博士(学 術)	金 美 玉	大韓民国	重金属イオン存在下におけるアスコルビン酸の自動酸化反応に関する研究
甲第 133号	博士(理 学)	岩 城 はるひ	神奈川県	糖タンパク質糖鎖の機能と構造 -多機能糖タンパク質ビトロネクチンにおける糖鎖-

(論文提出によるもの)

学位授与日：平成11年3月24日

授与番号	博士の専攻分野の名称	氏 名	本 籍	博 士 論 文 名
乙第 95号	博士(人文科学)	仁 藤 智 子	静岡県	古代国家変質過程の研究
乙第 96号	博士(人文科学)	弓 削 尚 子	鹿児島県	ドイツ市民社会の「性」と文明 -1800年前後の性秩序をめぐる議論-
乙第 97号	博士(人文科学)	櫻 井 陽 子	静岡県	平家物語の形成と受容
乙第 98号	博士(人文科学)	田 淵 句美子	茨城県	中世初期の歌人に関する研究
乙第 99号	博士(理 学)	小 杉 のぶ子	東京都	Occupation times of Gaussian processes and related Tauberian theorems of exponential type
乙第 100号	博士(人文科学)	中 島 伸 子	島根県	知識獲得の過程 -科学的概念の獲得と教育-
乙第 101号	博士(人文科学)	住 吉 チ カ	東京都	帰納論証の評価とその決定方略

乙第 102号	博士(理 学)	伊 藤 ユ キ	新 潟 県	Studies on the three groups of proteins in higher plants that may function through biologically active carbohydrates - Lectins, polygalacturonase inhibiting proteins and N-acetylchito oligosaccharide elicitor binding proteins -
乙第 103号	博士(学 術)	今 井 悦 子	東 京 都	食品物性による口腔内粒子感覚の予測
乙第 104号	博士(理 学)	多 田 敦 子	埼 玉 県	環境中の変異原性芳香族アミン生成機構に関する研究
乙第 105号	博士(理 学)	向 山 恵 津 子	東 京 都	A Study on the Relationship between the Activity and the Structure of Functional Proteins
乙第 106号	博士(理 学)	永 田 由 香	熊 本 県	Regulatory Mechanism of Megakaryocyte Growth and Differentiation
乙第 107号	博士(学 術)	李 栄 淳	大 韓 民 国	穀醬と魚醬メラノイジンについての比較研究
乙第 108号	博士(理 学)	高 井 貴 子	大 阪 府	生体内情報伝達系の知識ベースの開発



論文提出による学位授与

○卒業式及び学位記授与式

第47回卒業式及び第35回学位記（修士）授与式、第16回学位記（博士）授与式が3月23日（火）大学講堂で挙行された。

卒業者数及び修了者数

・卒業者数		(597名)
文教育学部		277名
理 学 部		151名
生活科学部		169名
・修了者数		(228名)
修 士 課 程	人文科学研究科	23名
	理 学 研 究 科	2名
	家政学研究科	3名
博 士（前期）課程	人間文化研究科	176名
博 士 課 程	人間文化研究科	24名

○入 学 式

平成11年度入学式が4月9日（金）大学講堂で挙行された。

入学者数

・学 部	(527名)		(41名)
文教育学部	231名	第3年次編入学	15名
理 学 部	142名	”	16名
生活科学部	154名	”	10名
・大学院人間文化研究科	(354名)		
博士前期課程	251名		
博士後期課程	103名		

諸 報

○平成11年春の叙勲について

平成11年4月29日の春の叙勲で本学名誉教授犬養 廉氏が勲三等旭日中綬章を受章されました。

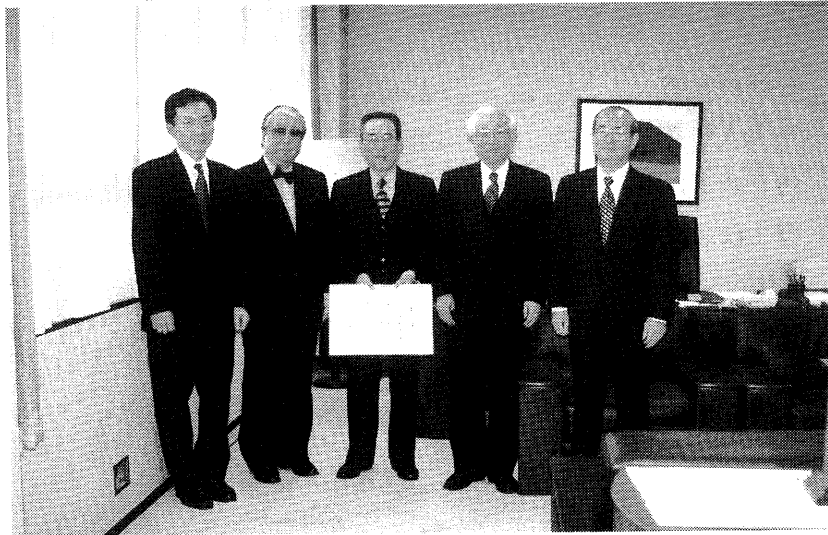
○永年勤続者表彰について

平成10年度退職時の永年勤続者表彰式が平成11年3月31日学長室で行われ、被表彰者に表彰状並びに記念品が授与されました。

被表彰者は次のとおりです。

お茶の水女子大学表彰

生活科学部 事務長 薄葉 章



表彰される薄葉 章氏（中央）

○海外渡航

所属・職名	氏名	渡航先国	渡航目的	期間	渡航種目
人間文化研究科・助手	松原洋子	アメリカ合衆国	学会発表及び文献調査	11. 3. 11～ 11. 3. 18	海外研修
文教育学部・教授	徳丸吉彦	ベトナム社会主義共和国	ベトナム雅楽の推進	11. 3. 15～ 11. 3. 21	海外研修
文教育学部・教授	鈴木泰	台湾	中華民国日本語文学会での講演	11. 3. 17～ 11. 3. 22	外国出張
生活科学部・教授	楡木満生	アメリカ合衆国	学校危機に関する対処法の実状視察	11. 3. 21～ 11. 3. 28	海外研修
ジェンダー研究センター・教授	原ひろ子	アメリカ合衆国	国際人口開発会議5年目に行われる人口特別総会の準備会議に出席	11. 3. 22～ 11. 4. 1	海外研修
理学部・教授	藤代一成	連合王国	Volume Graphics 国際ワークショップ'99 で論文発表	11. 3. 23～ 11. 3. 27	外国出張
生活科学部・助教授	小谷眞男	ポルトガル共和国 スペイン	南欧社会における宗教性の調査と資料収集	11. 3. 23～ 11. 4. 9	海外研修
人間文化研究科・助教授	坂元章	連合王国 フランス共和国	生涯学習の促進に関する研究開発のための調査	11. 3. 24～ 11. 3. 30	外国出張
附属高等学校・教諭	村田政子	シンガポール共和国	修学旅行(平成12年度実施)の下見	11. 3. 31～ 11. 4. 4	外国出張
附属高等学校・教諭	吉村雅利	シンガポール共和国	修学旅行(平成12年度実施)の下見	11. 3. 31～ 11. 4. 4	外国出張
理学部・助教授	中居功	フランス共和国	常微分方程式の解の幾何学的研究	11. 4. 1～ 11. 4. 15	海外研修
理学部・教授	増永良文	台湾	DASFAA '99国際会議に出席	11. 4. 18～ 11. 4. 21	外国出張

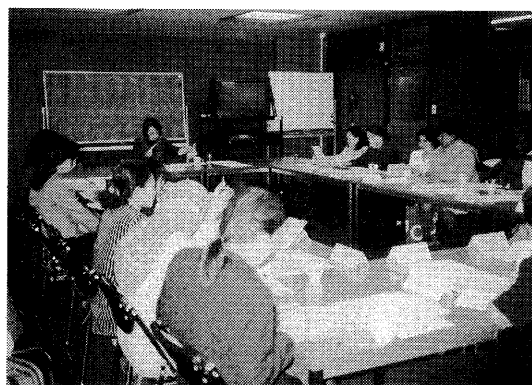
所属・職名	氏名	渡航先国	渡航目的	期間	渡航種目
文教育学部・教授	片岡康子	台湾	台北市における現代舞共同公演 「吾舞－興神之對話」に参加	11. 4. 26～ 11. 5. 2 (帰国予定)	外国出張
人間文化研究科・ 教授	石黒節子	台湾	台北市における現代舞共同公演 「吾舞－興神之對話」に参加	11. 4. 26～ 11. 4. 26	外国出張
ジェンダー研究 センター・教授	川嶋瑤子	アメリカ合衆国	アメリカにおける「大学教育とジェンダー」に関する情報及び資料 収集	11. 4. 29～ 11. 5. 9 (帰国予定)	海外研修

○平成10年度女性の教育問題担当官セミナーに係る研修員の訪問

平成8年度から文部省、外務省、国際協力事業団及び国立婦人教育会館の連携により実施されている「女性の教育問題担当官セミナー」の研修員が、3月11日（木）に本学を訪問した。

研修員の訪問は、今回が3回目で佐藤学長を訪問した後、大学構内を一巡してジェンダー研究センターの説明を受けた。

この研修は、開発途上国における女性問題の一つとして、女性の、特に少女時代の教育機会が男性と比較し、少ない状況を打開するため、発展途上国の担い手となる女性（特に少女）に対する教育の拡充・改善を図るため企画されたものであり、研修員はジェンダー研究センターの説明に熱心に聞き入り、質疑応答を交わした。



○CHATHAM COLLEGE 学長の表敬訪問

米国のCHATHAM COLLEGE Barazzone 学長が、4月8日（木）に佐藤学長を表敬訪問した。

Barazzone 学長は、女子教育に貢献する本学の実状について佐藤学長と懇談した後、ジェンダー研究センターを視察した。



○国際学生宿舎の改修整備工事竣工

かねてから改修整備工事を進めていた、国際学生宿舎（A棟）（板橋区仲町）がこのほど竣工した。

国際学生宿舎は、本学学生（外国人留学生を含む。）及び近隣国立7大学の女子留学生を入寮対象とし、総数399名を収容することとなった。生活の場を通じた真の国際交流ができるものと期待される。



A棟居室にて



エントランス棟前にて



A棟1階廊下



A棟外観及び北側植栽

○健康診断

事 項	実施日時	対 象 者	受診者数	実 施 場 所
職員特別定期健康診断	平成11年 3月9日	自動車運転手	1人	保健管理センター

○レクリエーション行事

『職員卓球大会』

去る、3月25日(木)に、附属高等学校体育館において、「職員卓球大会」が卓球班の主催により行われました。

3チーム14名の参加者が、各チーム総当たりで、熱戦を繰りひろげました。

なお、成績は、次のとおりです。

優 勝	中学校チーム (井上泰次、小泉 薫、田口裕子、脇 紀夫)
準 優 勝	連合Aチーム (石井朋子、井深順二、神田浩美、田村まり子、古山 泉)
第 3 位	庶務課チーム (青木真紀子、田中正幸、浜村知枝、村田容常、山本 隆)

(お知らせ)

ビデオソフトの貸出について

昨年度予定していました、映画鑑賞が映画館等の事情により実施できなくなりました。

については、当初予定していました予算で、ビデオソフトを購入し、職員に対し貸出をすることにしました。

今回購入したビデオソフトは、以下のとおりです。

踊る大捜査線①、踊る大捜査線②、踊る大捜査線③、踊る大捜査線④、男はつらいよ('68 松竹)、
続男はつらいよ('69 松竹)、男はつらいよ 寅次郎相合い傘('75 松竹)、
男はつらいよ 寅次郎かもめ歌('80 松竹)、男はつらいよ 寅次郎恋愛塾('83 松竹)、
男はつらいよ 寅次郎の休日('90)、男はつらいよ 寅次郎紅の花('95 松竹)、
リーサル・ウェポン('87 米)、リーサル・ウェポン2 炎の約束('89)、
リーサル・ウェポン3('92 米)、日本の四季~京都冬物語、日本の四季~富士山、日本の四季~尾瀬、
α派 1/fのゆらぎ 海からのおくりもの、α派 1/fのゆらぎ 大地からのおくりもの、
α派 1/fのゆらぎ 空からのおくりもの、α派 1/fのゆらぎ 波、α派 1/fのゆらぎ 小鳥のさえずり、
α派 1/fのゆらぎ せせらぎ、α派 1/fのゆらぎ 四季~春、α派 1/fのゆらぎ 四季~夏

貸出期間については、最長1週間とし、貸出を希望される方は、庶務課職員係へ申し込んでください。

担当：庶務課職員係(内線5111)

○訃 報

和田 久 徳 名誉教授

和田 久徳氏は病気のため平成11年3月9日逝去されました。享年81才。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

なお、生前の功績により正四位に叙されました。

生年月日	大正6年5月6日生
略 歴	昭和16年3月 東京帝国大学文学部東洋史学科卒業
	昭和16年10月 亜細亜文化研究所員
	昭和19年6月 東京帝国大学嘱託
	昭和23年4月 法政大学教授
	昭和28年4月 お茶の水女子大学講師
	昭和35年10月 お茶の水女子大学助教授
	昭和43年4月 お茶の水女子大学教授
	昭和58年4月 お茶の水女子大学名誉教授
	昭和58年4月 放送大学教授
	平成11年3月 逝 去

研究業績 東南アジアの歴史と文化の重要性に注目し、厳密な史料考察に基づく研究を進めて、東南アジア史研究の質を高め、特に東南アジアにおける初期華僑社会を軸とした各国の社会と国家の変遷についての研究業績は、斯界において高く評価されている。

本学在任中は、文教育学部長、評議員、附属図書館長2期を歴任し、また、放送大学在任中は、図書館長、評議員を務めた。

著 書 等	東南アジアにおける初期華僑社会 東 洋 学 報 昭和34年
	東南アジアの社会と国家の変貌 岩 波 講 座 昭和46年
	歴代宝案 校訂本一、二 沖縄県教育委員会 平成4年(共著)
	その他著書、論文等多数

そ の 他 平成2年4月29日 勲二等瑞宝章受章

日 誌

- | | |
|---|--|
| <p>3月1日(月) 課長会議
 中長期の就職採用問題研究会(於:
 東海大学校友会館)
 関東C地区国立学校事務情報化推進
 協議会(於:東京工業大学)
 事務連絡協議会</p> <p>2日(火) 附属図書館運営委員会</p> <p>3日(水) 大学院博士後期課程入学試験(～5
 日)</p> <p>8日(月) 生活環境センター運営委員会
 理学部拡大計画委員会
 部局長会議
 主任会議</p> <p>9日(火) 職員特別定期健康診断
 教授会</p> <p>10日(水) 桜蔭高等学校卒業式(於:桜蔭学園)
 学部(前期)入学試験合格者発表
 代議員会
 博士後期課程運営委員会</p> <p>11日(木) 女性の教育問題担当官セミナー研修
 員訪問
 ジェンダー研究センター運営委員会
 公開講座委員会</p> <p>12日(金) 学部(後期)入学試験
 大学院博士課程後期課程合格発表</p> <p>14日(日) 学部(前期)入学手続き</p> <p>15日(月) 学部(前期)入学手続き
 附属幼稚園卒業式
 歴史資料室専門委員会
 第1回インターンシップ導入のため
 の研究会
 自己点検・評価検討委員会小委員会
 停(定)年退官者全学送別会</p> <p>16日(火) 生活科学部カリキュラム小委員会
 新入生セミナー説明会</p> <p>17日(水) 附属中学校卒業式</p> <p>18日(木) 附属小学校卒業式
 国立大学協会理事会(於:霞が関ビ
 ル)</p> <p>19日(金) 国立大学協会50周年記念行事準備委
 員会(於:国立大学協会)
 主任会議(理・生)</p> <p>20日(土) 附属高等学校卒業式
 教授会</p> | <p>21日(日) 学部(後期)入学試験合格者発表</p> <p>23日(火) 学部卒業式
 大学院学位記授与式</p> <p>24日(水) 博士後期課程追加募集願書受付(～
 26日)
 学位記(論文博士)授与式
 部局長会議</p> <p>25日(木) 評議会</p> <p>26日(金) 学部(後期)入学手続き(～27日)</p> <p>27日(土) 拡大主任会議(文・理)
 入学試験委員会</p> <p>29日(月) 事務連絡協議会</p> <p>30日(火) 男女共同参画推進連携会議(於:総
 理大臣官邸)</p> <p>31日(水) 退職時永年勤続者表彰式
 附属学校教育研究委員会</p> <p>4月6日(火) 課長会議
 博士後期課程追加募集入学試験</p> <p>8日(木) 博士後期課程追加募集合格発表
 附属高等学校入学式
 附属中学校入学式
 附属小学校入学式
 代議員会
 研究科会議
 CHATHAM COLLEGE 学長表敬訪問</p> <p>9日(金) 入学式(学部)
 入学式(大学院)
 運営協議</p> <p>12日(月) 附属幼稚園入園式
 ジェンダー研究センター運営委員会
 部局長会議
 主任会議(理)
 運営協議</p> <p>13日(火) 国立大学協会第3常置委員会(於:
 国立大学協会)
 新入生オリエンテーション(文)
 新入生セミナー(理・生)(～14日)</p> <p>14日(水) 主任会議(文・生)
 SCS事業運営委員会</p> <p>15日(木) 外国人留学生オリエンテーショ
 ン
 教授会</p> <p>16日(金) 前学期授業開始
 概算要求学内ヒアリング</p> <p>19日(月) 全国就職ガイダンス(於:東京大学)</p> |
|---|--|

- 教育実習専門委員会
- 20日（火）運営協議
 拡大部局長会議・部局長会議
 入学者選抜方法研究委員会
 生活環境研究センター運営委員会
- 21日（水）国際学生宿舎見学
 運営協議
 代議員会
 評議会
 紀要（自然科学報告）編集委員会
- 22日（木）関東甲信越地区国立学校等会計部課
 長会議（於：東京大学）
 自己点検・評価検討委員会小委員会
- 23日（金）国立大学図書館協議会東京地区協議
 会総会・事務連絡会（於：一橋大学）
 事務連絡協議会
 学生委員会
 文教育学部入試方法検討委員会
- 26日（月）教育課程評価改善小委員会
 学芸員課程委員会
 東京地区大学入試センター試験に関
 する入試担当課長会議（於：日本社
 会事業大学）
- 27日（火）情報処理センター運営委員会
 入学試験委員会
- 28日（水）自己点検・評価検討委員会
 インターンシップ導入のための研究
 会
 技術課管内国立学校等施設整備事務
 連絡会議（於：東京工業大学）
 セクハラ相談員説明会
 附属学校教育研究委員会
- 30日（金）国際交流委員会
 国際交流基金理事会
 平成10年度決算報告会